PLAN INTERNATIONAL | GIRLS GET EQUAL

今こそ行動を!

声をあげよう

**アジア太平洋地域における、
強制された早すぎる結婚の防止と
終結に関する証言集**



Louder than Words: Collection of testimonies on preventing and ending child, early and forced marriage in Asia Pacific

was produced by Plan International Asia Pacific Regional Hub

© Plan International 2022

This publication can be downloaded free of charge at www.plan-international.org/asia

Design: Rewire Design

Writing and Editing: Rewire Design

謝辞

この出版物は、早すぎる結婚をなくす活動に勇気をもって従事している活動家の証言や声を記録したものである。これらの声を集めることに寄与したプラン・インターナショナルアジア太平洋地域統括事務所や、各国事務所の多くのスタッフたちによる尽力なしには実現しえなかっただろう。Kashfia Feroz、Wahida Zaman Shithi（バングラデシュのプラン・インターナショナル）、Chankrisna Sawada（カンボジアのプラン・インターナショナル）、Anchal Tushar、Chandel Himani（インドのプラン・インターナショナル）、Nazla Mariza、Rani Hastari、Moudy Alfiana（インドネシアのプラン・インターナショナル）、Israt Baki、Noy Promsouvanh（ラオスのプラン・インターナショナル）、Prasen Khati、Shanti Upadhyaya、Shreeram KC、Shreejana Bajracharya（ネパールのプラン・インターナショナル）、Selena Fortich、Kassandra Barnes（フィリピンのプラン・インターナショナル）、Wanvira Yodwangjai（タイのプラン・インターナショナル）、Laura Lopes、Etha Mota and Angela Tavares（東ティモールのプラン・インターナショナル）、Pham Thi Thanh Giang、Pham Kieu Trang、Tran Huu Phuong Anh（ベトナムのプラン・インターナショナル）に心より感謝申し上げる。特に、リージョナル・インフルエンス＆プログラム・チーム（Raša Sekulović）とリージョナル・コミュニケーション・チーム（Tran Thu Quynh, Pham Trang Nhung, Van Trong Hieu）メンバーのリーダーシップとコーディネーションに感謝する。また、**Rewire デザイン チームの創造性、革新的な成果、そしてこの魅力的な出版物をまとめてくれたことに感謝する。**

なお、プラン・インターナショナル(以下、プラン)のガイドラインに基づき、本文中の話に登場する人物の名前を、仮名にしている。

アジア太平洋地域における早すぎる結婚防止プロジェクトについては、

こちらのリンクを参照のこと。

アジア太平洋地域において、強制的な早すぎる結婚をなくすための取り組みの加速化を推進している地域プラットフォーム「Time to Act！」の詳細については、こちらを参照のこと。
Plan International | Time to Act – Let's Go Digital! (plan-international.org)

目次

序文 5

はじめに 7

アジア太平洋地域における早すぎる結婚の根本的な原因 8

今こそ行動を！アジア太平洋地域 9

今こそ行動を！ 10

- バングラデシュ 10
- カンボジア 24
- インド 36
- インドネシア 58
- ラオス 72
- ネパール 78
- フィリピン 90
- タイ 96
- 東ティモール 102
- ベトナム 108

地域別ストーリー 120





バギヤスリ・デングル
プラン・インターナショナル　アジア太平洋地地域
ジェンダー・トランスフォーマティブ政策担当エグゼクティブ・ディレクター

人生の物語を書き直す：早すぎる結婚をなくすための女の子の行動は、言葉よりも雄弁である。

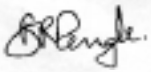
アジア太平洋地域の多くの地域では、女の子が生まれると、その人生の物語は始まる前から多くの疑問で彩られます。1歳の誕生日を迎えることができるのか？栄養は足りているのか、健康に育つのか。学校に行って勉強はできるのか？その後、自分の個性を感じ始めたとき、虐待から守られ、彼女の持つ才能や興味に合った、人生を豊かにする機会を探求するチャンスを与えられるのでしょうか。それとも、彼女の物語は家父長制の暗雲に一歩一歩覆い隠されていくのでしょうか。もし彼女が若くして結婚することになったら、彼女の人生の物語は突然引き裂かれるのだろうか？彼女の物語は、隷属、発言権の欠如、選択肢の欠如に特徴づけられる厳しい章の連続となり、前を向く選択肢もないのだろうか。

早すぎる結婚強制された結婚によって、何百万人もの女の子たちの人生が暗く魅力のないシナリオに書き換えられてしまっています。若い命は、明るい未来への展望がほとんどなく、希望が叶えられる機会もほぼないまま生きているのです。女の子たちの生まれ持った才能も、成長の過程で身につけた能力も、排除と孤立の地下牢の中で次第に枯れ果てて崩壊していきます。でも、このようになるべきではではありません。一つひとつの物語の流れは、力強い変化に向かって逆転することができるのです。この証言集が明らかにするように、悲劇の物語は、生存と勝利の物語にもなり得るのです。

この活気に満ちた証言集をご紹介できることを大変嬉しく思います。この証言集には、女の子たちの成長を助ける行動によって被害を防いだり、元に戻したりした真実の物語が語られています。カンボジアの農村からベトナムの遠隔地まで、バングラデシュの電波からインドとインドネシアのユースフォーラムまで、デジタルプラットフォームから地域の政策フォーラムまで、女の子たちは自分たちの人生を自分たちの手で取り戻しているのです。このコレクションは、たくさんのきらめくビーズでできた輝く首飾りのように、希望の火花を再び灯し、それぞれの物語が希望と正義を約束するように輝いているのです。

これらの草の根の救済の物語の一つ一つは、言葉よりも雄弁に語っています。これらの物語は、正義と力の永続的な戦いにおいて、小さくとも重要な勝利をもたらした行動の物語なのです。これらの闘争の物語を探求していると、よく知られた設定、登場人物、筋書き、緊張感などが浮かび上がってきます。

女の子たちのとめどない勇気、創造性、そして自分たちの生活やコミュニティを変革しようとする決意を示す、謙虚で輝かしい証言に心の耳を傾けることをお勧めします。私たちと一緒に、私たちが望む変化、つまり女の子が生活している社会の変化につながる活動に参加しませんか？



Bhagyashri



はじめに

早すぎる、強制された結婚（CEFM）は、有害な慣習であり、女の子に不平等な影響を与える世界的な人権問題である。最もリスクの高い女の子たちは、貧しい家庭の出身や社会から疎外されたグループ、農村部の出身であるため、手を差し伸べるのが最も困難な環境にいる子たちであることが多い。早すぎる結婚は深刻な悪影響をもたらすことが多く、何百万人もの女の子が自身の人生において能力や可能性を発揮する機会を奪われている。

早すぎる結婚は非常に深刻な問題だ。現在の6億5千万人強が早すぎる結婚のリスクがあるが、今後増加し、2030年までに、全世界で8億人を超える女性が早すぎる結婚の影響を受ける可能性があると言われている。

とりわけ、多くの国で着実にCEFMが減少しているものの、依然としてCEFMが蔓延しているアジア太平洋地域で、この慣習を根絶することは特に重要である。南アジアは、早すぎる結婚の絶対数が最も多い地域のひとつで、世界全体の40%以上を占めている。

南アジアでは過去10年間に女の子の結婚のリスクが3分の1以上減少したものの[1]、CEFMの割合が依然として最も高い地域であり、45%の女の子が影響を受けている。同地域では、毎年1,200万人を超える18歳未満の女の子が結婚しており、これは1分間に23人、2秒に1人の女の子が結婚している計算になる[2]。

東南アジアでも、CEFM率は非常に高いが、地域によってばらつきがある。ラオスでは20歳から24歳の女性の35%が18歳になる前に結婚しているのに対し、ベトナムでは11%である。さらにその割合は、カンボジア19%、インドネシア16%、ミャンマー16%、フィリピン15%、タイ23%とばらつきが見られる。

同地域の他の国でも、CEFM率は非常に高いが、国によって顕著な差がある。太平洋地域では、約8%の女の子が15歳までに結婚し、約26%の女の子が18歳までに結婚している。この地域は、世界のCEFM率において南アジアの次ぐ位置にある。

(1) https://data.unicef.org/resources/towards-ending-child-marriage/

(2) UNICEF, Child marriage database, 2020 (as cited by Girls Not Brides, Available at: https://www.girlsnotbrides.org/about-child-marriage/#sources

アジア太平洋地域における早すぎる結婚の根本的な原因

CEFMが進行している要因は国によって、時にはその国の地域やコミュニティによってさえも異なるが、多くの場所で、CEFMは経済発展の低さに密接に関連しており、子どもの花嫁は、圧倒的に貧しいコミュニティからやってくる。しかし、貧困だけでは、CEFMが生じる理由をすべて説明できない。貧困、教育や就業機会の欠如、コミュニティにおける女の子の役割に固定概念、脆弱な法的枠組みとその施行、紛争に直面する恐れ、有害な慣習や伝統の影響など、さまざまな要因が重なり、この地域でCEFMが蔓延しているのだ。

アジア太平洋地域におけるジェンダー不平等が引き起こす力の不均衡が、ジェンダーに基づく差別や排除をもたらしており、CEFMを誘発している。その結果、女の子は自分の権利を行使できず、男の子と同様の機会や保護、資源を得ることができないのだ。

紛争や政情不安に直面している地域では、避難民の家族は早すぎる結婚を、将来予測される苦難や危害から娘を守るための手段と考えることが多い。そして、人道的危機の状況下でCEFMにつながるのは、レイプや性暴力、望まない妊娠へのおそれと、それらによって家族の名誉が汚されるのではないかという恐怖、家を失い、飢餓に苦しむことへの恐怖であることが多い。



今こそ行動を！
アジア太平洋地域

昨今、早すぎる結婚の廃止に向けた世界的な機運がかつてないほど高まっている。先日、国連総会や人権理事会等で、早すぎる結婚という有害な慣習をなくすための対策のための拠出の増額を各国政府に求める決議が出された。

国レベルでは、共通点を理解しつつ、具体的な点に注意を払うことが、CEFMの発生率を予防・削減させる鍵となる。CEFMを引き起こす要因の多くは相互に関連しているため、CEFMに対処するための介入には、様々なレベル、様々な角度から根本原因や要因に取り組む多面的なアプローチが求められる。

プラン・インターナショナルのアジア太平洋地域における活動は、同地域におけるCEFMの撲滅、および思春期の妊娠の予防と減少のための効果的な実証済みの戦略を反映している。主な優先課題は、アジアにおけるCEFMの根絶に向けたユースの活動、関与、参加の強化、伝統的・宗教的指導者の関与、CEFMの防止と廃止のためのキャンペーン、デジタル技術やサイバープラットフォーム、オンラインソリューションの利用、そしてアクセスが容易で質の高いジェンダーを考慮したサービスを促進することだ。

世界的なCOVID-19のパンデミックを受け、アジア太平洋地域での介入は、今後5年間でアジア太平洋地域のCEFMを50%削減し、2030年までには撲滅するという地域の野心的な目標を反映した、TIME TO ACT! (今こそ行動を！) と Girls in Asia-Pacific に従い、持続可能な開発目標（SDGs）に沿って行動している。

この枠組みは、継続的な教育、経済的エンパワーメント、暴力からの保護、性と生殖に関する健康と権利といった4つの分野への投資拡大を意味し、女の子が主導する、ユースの活動によってさらに強化される。

今こそ行動を！

バングラデシュ

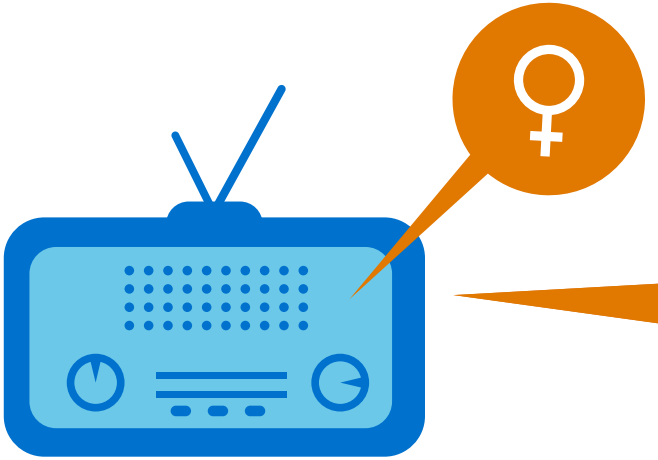
ラジオ波に乗せて、そしてコミュニティのなかで：社会変革を起こす2人の若き活動家

バングラデシュは、過去40年間で早すぎる結婚が大幅に減少したにもかかわらず、なぜ世界で3番目に早すぎる結婚が多い国なのだろうか。

なぜ、「特別な場合」と認められたら裁判所が早すぎる結婚を認めるような抜け道が残っているのだろうか。

なぜ、女の子の教育へのアクセス率が高いと、子どもの結婚率が低くなるのだろうか。

女の子が自らの人生と未来を切り開く機会を増やすために、どのような取り組みがなされているのだろうか。





ラジオ波に乗せて

バングラデシュのクリグラム地区に住む23歳の女性ラジオジャーナリスト、ハッピーは、毎日ラジオでCEFMに関する前述の質問を多く取り上げることに取り組んでいる。大学院2年生の彼女は、パンデミックによって、これまでコミュニティ内で行っていた戸別訪問の活動ができなくなって以降、**地元のコミュニティラジオ局「ラジオ・チルマリ」の人気番組を通じて**、早すぎる結婚防止に関するニュースや啓発メッセージを伝え、この有害な慣習に反対することを呼びかけている。

ハッピーの活動は効果を生み出している。最近、バングラデシュ政府から社会開発と女性のエンパワーメントに関する「Joyeeta」公共サービス賞を受賞したほか、ハッピーはこのプラットフォームを利用して、早すぎる結婚の新たな事例が発生することを防いでいるのだ。バングラデシュではパンデミック期間中に早すぎる結婚の発生件数が増えたが、**彼女の番組が放送されているチルマリでは件数が減っている**。地元では、CEFMが減少したのは、ハッピーの番組と、彼女が最近行った親や地元行政官を対象にした、早すぎる結婚のリスクと危険に関する啓発活動のおかげだと考えられている。

このラジオ番組は、スウェーデン国際開発庁の支援を受けてプランが2017年に立ち上げた、**女の子のためのよりよい未来づくり**の活動のひとつだ。

パンデミックが起きてから、プランが支援する**女の子のためのよりよい未来づくり**の一環として、ユースグループは、公共安全とワクチンの重要性について啓蒙する重要な役割を担ってきた。ユースグループは各地区で、さまざまなステークホルダーを巻き込んで、マスク配布、アドボカシー活動、ハッピーのラジオ番組などの広報キャンペーンなどを行っている。

コミュニティで

プランのバングラデシュ事務所では、電波を使って、活動に参加していない女の子たちにも早すぎる結婚の防止と阻止のための発信者となるように働きかけている。カナダのグローバル・アフェアーズとプランが支援するバングラデシュ早すぎる結婚撲滅プロジェクトを通じて、男の子と女の子が同様に早すぎる結婚を阻止し、思春期の若者、特に女の子の脆弱性を軽減するための支援を提供している。このプロジェクトは、女の子と男の子の主体性を高め、人々がコミュニティに変化をもたらすことに肯定的な社会環境を提供するものである。

このプロジェクトの受益者の一人であるスウィーティ・アクターは、ジャラカティ地区カタリア・ウパジラの学生で、バングラデシュの**早すぎる結婚撲滅プロジェクト**のメンバーとして活動している。若くして結婚した2人の姉の苦悩を目の当たりにした体験は、彼女の心に深く刻まれた。

中庭での集会や空手教室に参加したスウィーティは、早すぎる結婚がもたらす多くの危険について学び、学びにともなう自身の能力の向上を感じ、変化を起こす方法を知った。その後、プロジェクトが寄贈した自転車を手に村を巡回するようになったスウィーティは、早すぎる結婚や女の子の健康について、熱心かつ影響力のある発信者となり、声を大にして推進するようになったのだ。

「最初は、村の人たちは私の言うことをあまり聞いてくれませんでした。私の言葉に耳を傾けてくれることはなかったです。でも、希望を失いませんでした。勉強の合間を縫って、早すぎる結婚の反対を訴え続けています。」とスウィーティは言う。

彼女の目標は、彼女のコミュニティから早すぎる結婚をなくすことだが、そのためには、貧困が大きな障壁になると考える。スウィーティとその家族は、バングラデシュ早すぎる結婚撲滅プロジェクトから資金援助を受けており、スウィーティの母親は女の子向けの衛生用品を販売する店を開くことができた。スウィーティは、家族の生活を支えないといけないという重圧がなくなったことで、トレーニングで学んだメッセージを広め、学ぶことを続けられる自由を得たのだ。

バングラデシュの早すぎる結婚撲滅プロジェクトは、スウィーティが暮らすコミュニティでは、早すぎる結婚の危険性について女の子や男の子、大人を教育するだけでなく、個々の状況に目を向け、誰もが変化を起こせる可能性を引き出すという意味で、非常に重要だ。



「勉強の合間を縫って、
早すぎる結婚の反対を
訴え続けています」。

女の子は、自分のような立場に置かれている子が、時代遅れの社会規範に立ち向かう姿を目の当たりにすることで、バングラデシュの早すぎる結婚を撲滅するための勇気ある行動を数え切れないほど生み出すことができるのだ。

未来に向けたコラボレーション

女の子のためのよりよい未来づくりとバングラデシュにおける**早すぎる結婚の撲滅**の両プロジェクトは、女の子も大人も一緒になって、バングラデシュで早すぎる、強制された結婚が確実に減少し続けるよう取り組んでいる。この女の子と大人が一緒に活動することは、集団的な変化をもたらし、女の子を危険な立場に置こうと考えている人に新しい考え方を提供する意味で重要である。さらに、女の子は、自身のような女の子がこうした時代遅れの社会規範に立ち向かう姿を目の当たりにすることで、バングラデシュの早期結婚を撲滅するための勇気ある行動を数え切れないほど生み出すことができるのだ。

だからこそ、ジャラカティのコミュニティから子どもの結婚をなくす、という夢を追い求めるスウィーティの訴求力のある熱意は光り輝いているのである。そしてこのことが、ハッピーが、コラボレーションがチルマリの女の子の未来をより良くするために貢献していると肯定的に感じられる理由である。













バングラデシュにおける早すぎる結婚の撲滅

バングラデシュ**早すぎる結婚撲滅**プロジェクトは、同国の早すぎる強制された結婚と闘い、思春期の若者、特に女の子の脆弱性を軽減することを目的としている。これは、各家庭での経済的な課題、ジェンダーの不平等や差別を永続させる社会規範、子どもの権利侵害を防ぎ保護するための強力な統治機構の欠如など、CEFMの根本原因に取り組むことで実施されている。

学校内外での男の子と女の子の主体性は、彼らの主体性を尊重する社会環境を作り、個人的、社会的、経済的な資産を改善することで強化される。これには、経済的懸念を軽減するための家族への援助や、学校で女の子の権利や性と生殖に関する健康と権利に関する知識を学ぶプログラム、正しい決断ができるようにするための同世代でのサポートの推進などがある。

また、このプロジェクトでは、コミュニティ内で男女の行動力を高め、女の子が学校に通い続け、婚期を遅らせるように、多くは中庭での会合を通じて、働きかけ、支援することで、悪しき文化規範を解消することを目指している。

今こそ行動を！

バングラデシュ

チャンピオン・ファーザーズ（Champion Fathers）：バングラデシュの農村で早すぎる結婚をなくすために



毎週金曜日のクリグラム地区のモスクでの礼拝のとき、身を寄せ合った男性たちがひとりの男性の話に真剣に耳を傾けていた。普段の会話は、信仰、仕事、日常生活、スポーツと、簡単に話題が変わってしまう。しかし、この日の話題は、めったに話題にならないものだった。「早すぎる結婚をなくそう」

男性は、友人や家族、仲間にこう言った。「イスラム教では、すべての男性と女性に教育を受けさせる義務があります。もし、早すぎる結婚を認めるなら、この義務に従わないということになります。」

数年前から、マウラナMD. アブドゥル・ラザークは、バングラデシュの地方都市にある自分の教区で、早すぎる結婚に反対するキャンペーンを続けている。モスクを訪れる男性に彼らの娘を結婚させないように説得するとともに、コミュニティでセッションを行い、早すぎる結婚に反対するカウンセリングを行っている。今では、彼の住むクリグラム州ナゲシュワリ・ウパジラのネワシのコミュニティでは、早すぎる結婚は行われていない。彼は**チャンピオン・ファーザーのひとりだ**。

「18歳で娘を結婚させなかったからこそ、チャンピオン・ファーザーになれた」と彼は言う。

また、**女の子のためのよりよい未来づくり**プロジェクトでは、「チャンピオン・ファーザー」と「チャンピオン・マザー」が、強制された早すぎる結婚に関連するリスクや害についての意識を深め、コミュニティにおける事例の特定、報告、対応に貢献できるよう支援している。彼らは、早すぎる結婚と闘う真の支持者になってきている。バングラデシュのプラン・インターナショナルは、コミュニティでの集会を通じて、コミュニティ内でチャンピオンの役割を担うことができそうな母親や父親を特定する。コミュニティ内の有力者であるアブドゥル・ラザークのように。彼らは、早すぎる結婚の原因と結果、出生届や女の子を学校に通わせ続けることの重要性についての研修を受けている。



「18歳で娘を結婚させなかったから
チャンピオン・ファーザーになれた。」

彼らはまた、バングラデシュの法律、政府の教育への取り組み、早すぎる結婚防止策に関する情報も提供され、早すぎる結婚が行われる可能性がある場合に介入できるよう力をつけている。

そのおかげで、アブドゥル・ラザークは、自分のコミュニティの数え切れないほどの親たちに、娘を結婚させないようアドバイスし、彼の教区が早すぎる結婚のない地域であることを保証している。彼は、15歳の娘の結婚を取り付けた親戚のひとりを思いとどまらせることもできた。

*「私は、政府が女子教育のためにすべてを無料で提供していることを伝えました。学校にさえ行かせればいいんだ。結婚させないでくれ」と言い、「その結婚を止めたのは私です。」*と述べた。



「イスラム教では、すべての男性と女性に教育を受けさせる義務がある。」



バングラデシュ

その結果、その娘は本人が望んだタイミングで結婚でき、現在では家族全員が幸せに暮らしている、という。

強制された早すぎる結婚は、女の子たちによるたゆまぬ称賛に値する活動だけでは阻止できない。早すぎる結婚を支持する人びとに、それをやめさせる重要なメッセージをきちんと伝えるためには、できるだけ多くのコミュニティの関係者がジェンダー平等を理解する必要がある。チャンピオン・ファーザーとチャンピオン・マザーは、早すぎる、強制された結婚を撲滅するためのキャンペーンを通じて、女の子や女性を劣ったものとみなし、母親や家族の世話の役割に限定する、**有害で差別的なジェンダーに基づくステレオタイプ**に挑戦するという、重要な役割を担っている。

これは、アブドゥル・ラザークが数年前から行っている、ジェンダー不平等を解消するための幅広い取り組みのサポートにもつながる。

「このまま活動を続けていけば、いつの日か早すぎる結婚が社会に存在しない日が来ると思います。」

女の子たちのよりよい未来を築くために

女の子のためのよりよい未来づくりプロジェクトは、地域コミュニティや地方政府・行政関係者とともに、幅広い子どもの権利のなかでも3つの重要な権利であるアイデンティティ、保護、参加の権利の実現に取り組み、早すぎる結婚を防止・減少させるとともに、有害なジェンダー・ステレオタイプをなくすことにも取り組んでいる。

よりよい未来づくりプロジェクトは多面的な戦略を採用し、相互に補強し合うように設計された、いくつかの主要なアプローチを展開している。これらのアプローチは、特に女の子と男の子の間で、強制された早すぎる結婚に関する知識と意識を高めるという、変革のためのより広範な戦略を支えるものであり、ユース自身が知識と情報を身につけ、人生や将来について十分な情報を得たうえで決断するために、とりわけ重要なものでである。

このプロジェクトでは、コミュニティとの連携およびコミュニティ内での活動に重点を置いている。例えば、**女の子のためのよりよい未来づくり**は、ロックダウン下であってもクリグラムにおける早すぎる結婚率の把握に重要な役割を果たしている。プロジェクトのリーダーは、ジェンダー・ステレオタイプに疑問を投げかけ、人々、特に権力や影響力のある人々が結婚を遅らせることに賛同するよう、態度を変容させる活動を実施している。また、学校に在籍する女の子と男の子を対象に、ジェンダー平等や性と出産に関する健康と権利に関する教育も行っている。また、学校に通っていない子どもたちや若い思春期の若者も、誰一人取り残されることのないように配慮している。これは、ユース・フォーラムの設立、学校における女の子にやさしい行動計画、早すぎる結婚の疑いや差し迫った事例を報告するための全国ホットラインの利用増加などにつながっている。また、チャンピオン・ファーザーとチャンピオン・マザーの幅広いネットワークを含め、親やコミュニティのリーダーへの教育や意識啓発も重要である。



バングラデシュにおける早すぎる結婚の影響

バングラデシュの早すぎる結婚率ランキング[1]。

アジア太平洋地域で

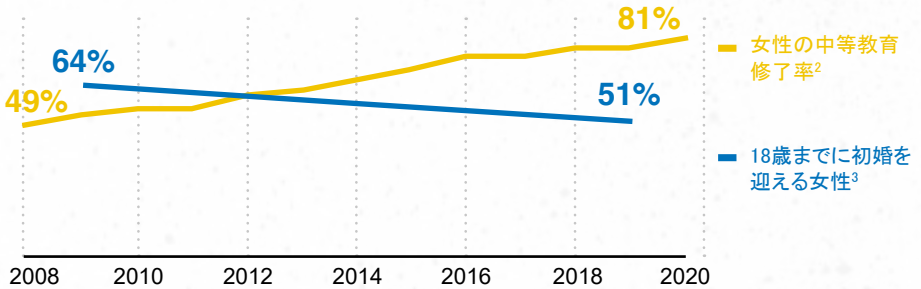
第1位



世界全体で

第8位

女の子を教育し、早すぎる結婚をなくす。



18歳までに初婚を迎える女性は2009年から2019年にかけて13%減少し、女性の中等教育就学率は2008年から2020年にかけて32%を超え増加傾向にある。

(1) (August 2021). UNICEF. UNICEF global databases. Available at https://data.unicef.org/resources/dataset/child-marriage/ (accessed 20 January 2022).

(2) (2020). UNICEF. *Ending Child Marriage: A profile of progress in Bangladesh.*

(3) (2021). World Bank. *World Development Indicators*. Available at https://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.ENRR.FE?locations=BD (accessed 20 January 2022).

今こそ行動を！

カンボジア

連鎖を断ち切る:
カンボジアにおける早すぎる結婚と貧困の連鎖を断ち切る女の子たち

想像してみてください。あなたは結婚を控えている若い女の子です。あなたが暮らす村の他の女の子は、結婚しているか待っているかのどちらかです。ラジオをつけたり、ネットを見ると、自分と同じような女の子が「もっと違うことがあるんだ！」と伝えているのです。



カンボジアのプランでジャーナリズムの研修とメディア機器の提供を受けたケリー（18歳）は、*「私の話がメディアに載ったことで、女の子たちはジェンダー平等や早すぎる結婚についてもっと話すようになりました。」*と話す。



正しい質問をする取材記者たち

最近、カンボジアのプランは、**早すぎる結婚に関するストーリーを制作・放送できるように女の子たちを訓練する**プロジェクトを開始した。するとすぐに、10代の若者たちが反応を示した

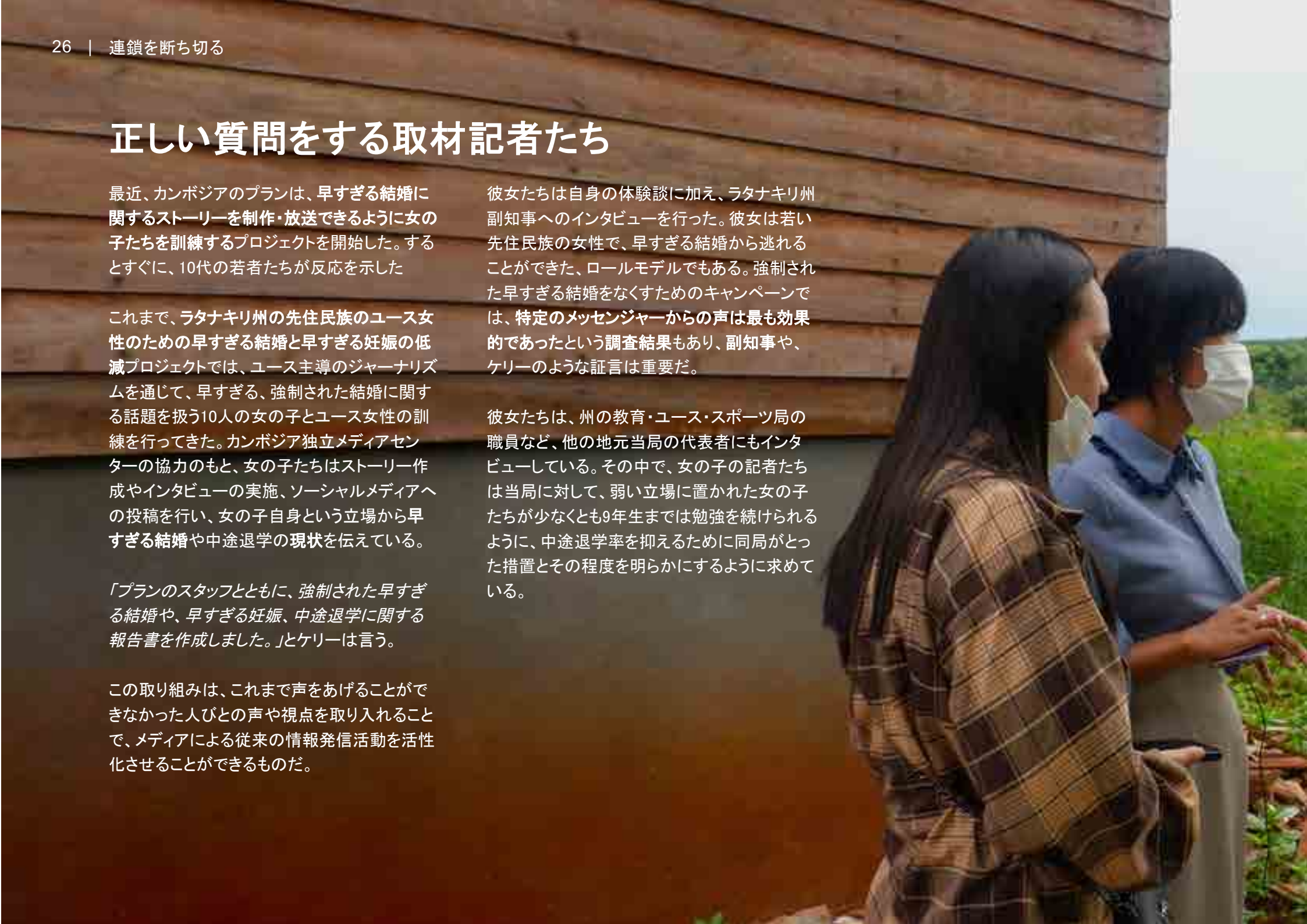
これまで、**ラタナキリ州の先住民族のユース女性のための早すぎる結婚と早すぎる妊娠の低減**プロジェクトでは、ユース主導のジャーナリズムを通じて、早すぎる、強制された結婚に関する話題を扱う10人の女の子とユース女性の訓練を行ってきた。カンボジア独立メディアセンターの協力のもと、女の子たちはストーリー作成やインタビューの実施、ソーシャルメディアへの投稿を行い、女の子自身という立場から**早すぎる結婚**や中途退学の**現状**を伝えている。

*「プランのスタッフとともに、強制された早すぎる結婚や、早すぎる妊娠、中途退学に関する報告書を作成しました。」*とケリーは言う。

この取り組みは、これまで声をあげることができなかった人びとの声や視点を取り入れることで、メディアによる従来の情報発信活動を活性化させることができるものだ。

彼女たちは自身の体験談に加え、ラタナキリ州副知事へのインタビューを行った。彼女は若い先住民族の女性で、早すぎる結婚から逃れることができた、ロールモデルでもある。強制された早すぎる結婚をなくすためのキャンペーンでは、**特定のメッセンジャーからの声は最も効果的であった**という**調査結果**もあり、**副知事**や、ケリーのような証言は重要だ。

彼女たちは、州の教育・ユース・スポーツ局の職員など、他の地元当局の代表者にもインタビューしている。その中で、女の子の記者たちは当局に対して、弱い立場に置かれた女の子たちが少なくとも9年生までは勉強を続けられるように、中途退学率を抑えるために同局がとった措置とその程度を明らかにするように求めている。





早すぎる結婚に反対する新世代の教育者たち

カンボジアでは、ほぼ5人に1人が18歳の誕生日を迎える前に結婚してしまうなど、**若いうちに結婚する女の子が後を絶たないが**、カンボジアのプランの取り組みが成果を上げつつある。

プラン・インターナショナルは、ラタナキリ州での発信活動を通じてこの問題を強調するとともに、ユースを対象にした職業技能訓練や、性と出産に関する健康と権利に関する授業を提供するほか、10代の若者どうしが対話を通じて主体的に学び合うピア・ラーニングを指導するプロジェクト、**ニュージェネレーション**の実施もサポートしている。

最近、**ニュージェネレーション**を卒業した18歳のフォンは、村で未婚の女の子であることの重圧を肌で感じていた。

*「私の村では、習慣や伝統から、早く結婚するようプレッシャーがあります。人びとは、結婚すれば農作業の人手が増えると考えるし、親は若い女性が結婚しないと独身のまま重荷になると心配する。」*と、フォンは語る。

彼女は学んだことに大変感動し、故郷の村に戻ると、両親に「選ばれた男性とは結婚しない。」と告げた。

*「彼らは早すぎる結婚の危険性を理解せず、私たちのコミュニティの伝統や規範を続けようとしたのです。」*と、彼女は話した。

「授業があったからこそ、結婚せずに学校にいれば就職できることを伝えることができました。幸いなことに、彼らは最終的に話を聞いてくれました。」

教育を続けることができたフォンは、現在大学に通っており、卒業後はソーシャルワーカーの仕事に就くつもりである。また、地域社会で同世代でともに学習しあうピアエデュケーターとして、性にまつわる話や早すぎる結婚の落とし穴について他の人に伝えている。

「コミュニティのすべての若者に、自覚を持ってほしい。早すぎる結婚が人びとに与える悪影響や、教育がいかに自分の将来へのよりよい展望や健康的な生活をもたらすかを知ってほしいです。私はソーシャルワーカーになり、より多くの若者がコミュニティで影響力のある市民になることを望んでいます。」

「早すぎる結婚が人びとに与える悪影響や、教育がいかに自分の将来へのよりよい展望や健康的な生活に影響するか、知ってほしいです。」



ノイズメーカー

ラタナキリ州では、早すぎる結婚を撲滅するために、情報の共有が重要な鍵となっている。女の子たちは声を発し、変化を起こしている。最近では、フォンのような多くの女の子が、性の健康や早すぎる結婚に抵抗することの利点について、自信を持って仲間に伝えることができるようになった。

そして、ケリーや彼女の仲間の記者たちは、今では早すぎる結婚について効果的に報道する方法を知り、そのメッセージを州全体に広めることができるようになった。

「ジャーナリズムについて学び、早すぎる結婚と闘うための重要なメッセージを放送する機会を与えてくれたカンボジアのプラン・インターナショナルにとても感謝しています。放送については、まだまだ勉強することがたくさんありますが、これまで以上に強い決意を持ち、できる限り多くの人に情報を伝えたいと思っています。」

今こそ**行動を！**

カンボジア

早すぎる結婚に捕らわれたカンボジアの女の子にチャンスを与える窓

想像してみてください。

自分が、教育を受け、起業を夢見る聡明な若い女の子であると。意欲的で早く学校に到着し、一生懸命勉強する準備ができている自分を。

その後、もし、家族が働く農場で夜まで一生懸命働くことになるとしたら？



しかし、ある日、あなたの家族はあなたを学校に通わせる余裕がなくなってしまい、そして、それが早すぎる結婚につながるとしたら。あなたの起業の夢は消え失せ、将来も不透明になったとしたら。

これと同じことが、ラタナキリ州で暮らす20歳のリーンの身に起きた。リーンは小学校3年生で学校を中途退学し、14歳の時にはすでに結婚していた。リーンの話は、カンボジアの農村部ではごく当たり前で、経済的困窮に対処するために、女の子に結婚を強いることが文化として根付いているのだ。

現在、カンボジアのプランが支援する、**早すぎる結婚を減らすための技能開発と雇用**というプロジェクトが、カンボジアの女の子たちに、これまでとは違う、よりよい人生への希望の光を与えている。正式な技術や訓練を受けていない人が利用できるこの創設3年目のプロジェクトは、女の子たちに**新しい技術を教えることが、家庭や国ができる最善の投資の一つである**ことを示している。このプロジェクトでは、ラタナキリ州の研修センターでさまざまな技能訓練を行っており、リーンはメイクアップや化粧品に関する研修を受けた。



研修中、彼女は将来への前向きな気持ちを隠せなかった。「このプロジェクトに参加できると知ったときは、本当にうれしかったです。これは私の人生を変えました。地元に戻って、この研修がいかに人生を変えることができるかを他の女の子たちに伝えるのがとても楽しみです。」

「私の家は貧しいので、親は私が勉強を続けるための十分なお金を持っておらず、私は小学校6年生で学校を辞めることを余儀なくされました。私の家族はだれも小学校を卒業したことがありません。」

リーンのような多くの女の子たちにとって、このプロジェクトが実行可能なのは、毎日の食事手当とトレーニング修了のためのサポートがあるからである。参加者には宿泊施設が提供され、毎日の食費は約2.5ドルの支給があれば十分なので、彼女たちは授業後に仕事を探さなければならないという不安はない。また、リーンは夫と一緒に学校まで移動するための資金も受け取った。

ラタナキリ州に住む19歳の女の子アンピンは、縫製の職業訓練に参加し、訓練に参加するための支援は確かに役に立った。この手当のおかげで、彼女は支障なく研修を続けることができ、またカンボジアのプランは、彼女の父親が研修に同行できるように支援した。

「私の家は貧しいので、親は私の勉強を支援するための十分なお金を持っておらず、私は小学校6年生で学校を辞めることを余儀なくされました。私の家族はだれも小学校を卒業したことがありません。」

このプロジェクトで明らかになったのは、学校を卒業できなかったユース女性を訓練し、教育することが、開発努力に不可欠であるということだ。教育を受けた女の子は、より多くの収入を得ることができ、自分と家族をしっかりと守り、自分に自信を持ち、より安全な妊娠の時期と方法を自身で決められ、若くして結婚する可能性も低くなる。すると、彼らは自身が家庭を築いたときに、息子や娘が学校を卒業し、貧困にあえぐ人生を回避するチャンスを得る可能性が高いのである。





「地元に戻って、
この研修がいかに人生を変える
ことができるかを他の女の子
たちに知ってもらうのが
とても楽しみです。」

「農業以外で家族を養うための所得を得るために、職業訓練を利用して小さなビジネスを始めようと思っています。」

このプロジェクトは、女の子に縫製や簿記などの技術を教えることで、地元で必要とされる能力を身につけさせ、自身や家族をよりよく支えるための仕事を見つける手助けをしている。

最近アンピンは、研修を終えた後の未来がとても楽しみである。彼女は、自分の村の他の人たちにも、辛抱強く、どんな特別な機会でも掴み取るように勧めたいと考えている。彼女は、たとえ貧しくてもよりよい生活を手に入れられることを示す、村の他の若い女の子たちのお手本になりたいと願っている。

*「農業以外で家族を養うための所得を得るために、職業訓練を利用して小さなビジネスを始めようと思っています。」*と、アンピンは語った。

研修が終わると、リーンも村に戻った。彼女は農業を再開するのではなく、カンボジアのプランを通じて学んだ技術を活かして美容院を開き、1日7.50ドルから12.50ドル相当と、農業での収入の約3、4倍を稼いでいる。

「私は村のみんなに、特に女の子には、教育によってよりよい生活ができると言っています。」



カンボジアにおける早すぎる結婚の影響

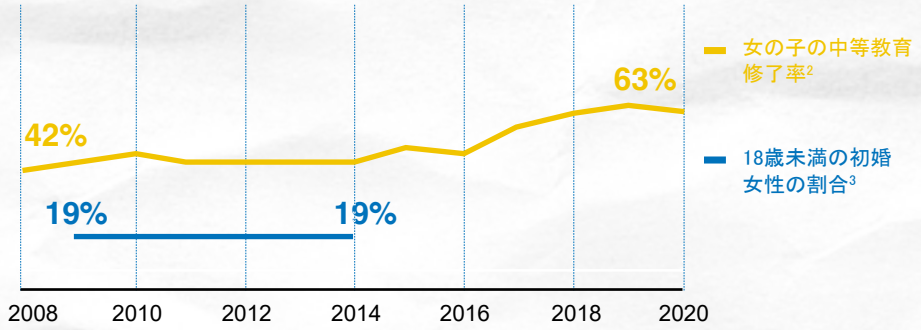
カンボジアの早すぎる結婚率ランキング[1]。

アジア太平洋地域で
第13位



世界全体で
第74位

女の子を教育し、早すぎる結婚をなくす。



18歳未満の初婚女性の割合は2009年から2014年まで変化がなく、女の子の中等教育修了率は2008年から2020年いかけて21%上昇している。

(1) (August 2021). UNICEF. *UNICEF global databases*. Available at https://data.unicef.org/resources/dataset/child-marriage/ (accessed 20 January 2022).

(2) (2018). UNICEF Cambodia and Division of Data, Research and Policy. Statistical Profile of Child Protection in Cambodia.

(3) (2021). World Bank. *World Developament Indicators*. Available at https://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.CMPT.LO.FE.ZS?locations=KH (accessed 20 January 2022).

今こそ行動を！

インド

決してあきらめない：「早すぎる結婚」がなくなる日まで、歩みを止めないユース女性たち

「チェンジメーカーは決して止まらない、この旅は止められない」シャキナ、インド。

あるユース女性活動家が、多くの生徒がひしめき合う広い教室にいる10代の女の子たちに、自分が自分の人生を変えることができる、と熱心に話している。彼女たちの人生は「早すぎる結婚」や「早すぎる妊娠」で始まり終わるだけではないこと、男子生徒と平等であること、教育を継続し、より明るい将来を手に入れることが可能であること、を彼女は教えている。





「早すぎる結婚は、女の子の生命と健康を危険にさらす女の子の権利の侵害である」

このユース活動家であるシャキーナは、幸運にも、インドの多くの女の子たちとは異なる人生のスタートを切った。生まれた時から彼女は、なりたいものなら何にでもなれる、と言われ続けてきた。両親はすべての女の子たちは平等であると教え、祖父は毎日のように女性が自立することは可能なのだ、と励まし続けた。

インドの女の子の多くは、シャキーナとまったく違う状況に置かれている。**インドでは1,500万人を超える女性が18歳未満で結婚しており、これは世界で最も多い数字である。**インド国内における女の子の23%が18歳未満で結婚しており、これはおよそ4人に1人の割合になる。

当局は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による状況のさらなる悪化を懸念している。強制的移住や仕事不足、不平等格差の拡大により、多くの家庭では、経済的負担の軽減と社会的伝統を順守するために娘たちをより早く結婚させる傾向にある。

南東部沿岸育ちのシャキーナは、「早すぎる結婚」や家庭内暴力といったジェンダーに基づく暴力に苦しむ女の子たちの存在を目にしてきた。同級生の女の子たちの多くが強固で抑圧的なジェンダー規範に縛られ、家に閉じこもらざるを得ない一方で、その兄弟たちは自由に登校しているのを見ていた。

「早すぎる結婚は、女の子の生命と健康を危険にさらす女の子の権利の侵害です」と彼女は話す。

理解ある家族によって安定した立場にいた彼女には、多くの友だちが強いられるこの有害なジェンダー規範が理解できなかった。**彼女は、インド社会のチェンジメーカーとなり**、世界中でこうした有害な慣習をなくすために声を上げていくことを誓った。



変化を生み出す、彼女の止まらぬ旅路

シャキーナは自身の言葉を忠実に守り、3年以上前からジェンダー平等を推進する活動家として、早すぎる結婚への反対を訴えている。彼女のメッセージは、世界中で何百万人もの人々に届いている。

*「活動家として、社会、特に女の子やユース女性の問題は、常に私の心の中にあります。私はアドボカシー活動に従事しています。小さな努力が社会に大きな変化をもたらすことは明らかです。」*と、彼女は語った。*「女性に対するあらゆる差別をなくす時が来たのです。**女の子の泣き声が聞こえることがなくなり、代わりにどの女の子の顔にも、笑顔が見られるようになるべきです。**」*

シャキーナは、インドのプラン・インターナショナルの**ガールズ・アドボカシー・アライアンス（以下、GAA）**を通じて、成長を続ける若いアドボカシー・ネットワークの一員となった。彼らは、権威ある立場にいる人々とのコミュニケーションスキルの向上に重点をおく、ジェンダー・トランスフォーマティブ・コミュニケーション・ツールで学び、力をつけている。このGAAでは、ユース活動家たちが一般の若者やその保護者、宗教指導者や地方自治体、政策決定者といった人々全体へ確実にメッセージを伝えることができるよう、ツールやリソースを提供している。

トレーニング、ノウハウ、そして新たに見つけたコミュニケーション・ツールを手に入れたシャキーナは、「早すぎる結婚」の撲滅とジェンダー平等社会の推進に向けたキャンペーンを展開し、その活動はとどまるところを知らない。

「私は、一軒一軒そして地域から地域へ、大学、学校、孤児院など多くの場所を訪問して、この国の社会問題に対して声を上げています。人々がより多くのことを知り、彼ら自身の権利と責任に気づくように啓発しています。」

彼女のカレンダーは、毎日予定で埋まっており、実績には枚挙にいとまがない。ジェンダー平等への尽力から、彼女の声は今や沿岸部の町から無数の場所に届くようになった。彼女は仲間の支持者たちとともに、インドの女の子と女性の安全保障について、全国的な政党指導者たちの前に立ち、質問してきた。また、彼女は企業との協働も含め、恵まれない女の子や女性向けの就労を目的とした職業訓練コースを推進する数多くのフォーラムやパネルディスカッションに参加している。

*「一番良かったのは、企業との調整がすべてうまくいき、私たちが依頼し、要望したものをすぐに受け入れてもらえたことです。」*と、彼女は語った。

「活動家として、社会、特に女の子やユース女性問題は、常に私の心の中にあります。私はアドボカシー活動に従事しています。小さな努力が社会に大きな変化をもたらすことは明らかです。」

彼女が学校や大学の教室で行う活動は、おそらく最も感情に訴え、インパクトが強いものになる。なぜならそこは、シャキーナとGAAパートナーたちが「早すぎる結婚」や子どもの人身取引、家庭内暴力について、若者たちに直接啓発することができる場所だからだ。

「私は国のチェンジメーカーになる、という誓いを立て、ユース活動家になるチャンスを得たのです。私は、若い友人たちにより多くを知り、学び、国のために尽くしてもらいたいと思い、名乗りを上げました。」

彼女は*GAA*のメンバーと共に、10代で結婚と妊娠を経験した生徒たちに会いに、あるウルドゥー語の学校を訪れた。彼女たちは、保健サービスや支援不足が原因で、生徒たちがクラスメートの出産を手伝わなければならなかった過去の体験談に耳を傾けた。

シャキーナは、ただ座って聞いている場合ではないと感じた。「こんなことが繰り返されるべきではないと思ったのです。私たちはチャイルドヘルプラインの番号と私たちの携帯電話の番号を共有し、私たちの側からの援助を提供しました。なぜなら、人々を守るのが私たちの義務だからです。」



数百万人に向けて

シャキーナは、自分のコミュニティの仲間の女の子たちの人生を変えたいと思い、「早すぎる結婚」を防ぐためにあらゆる手を尽くしている。女の子が直面する問題について地域の人々と話し合い、ラジオやソーシャルメディアなどのさまざまなプラットフォームを通じて、啓発活動を行なっている。ソーシャルメディアでの人気から、彼女はさまざまなビデオクリップ、インタビュー、キャンペーンなどを毎日数百万人のフォロワーに届けている。

「デジタル・プラットフォームは、あらゆる年齢層の人びとの意識を喚起することで重要な役割を果たします。私の声は、ソーシャルメディア上で何百万人もの人々に届いています。ソーシャルメディアのハッシュタグによって、多くの有力な省庁、団体、警察そして政治家たちに働きかけることができ、「早すぎる結婚」防止の支援を申し出てくれました。」

しかし、シャキーナの取り組みにも常に困難が伴っている。彼女が社会に広く声を上げているために、変化を望まない人々の反発を受けることもある。しかし彼女は自分の信念に沿って闘い続けている。

「有害な社会的慣習をなくすために、日々奮闘し、厳しい指摘を聞き、オンライン・ハラスメントを受けながらも、私はここで生き残り、貧しい女の子や若年女性のために声を上げています。」

「早すぎる結婚」に反対する活動において、シャキーナの声は、インドだけでなく世界中の何百万人もの人々にも届いている。彼女はさまざまな地域や世界規模で開催されるフォーラムで発言し、これまでに自身が行なった素晴らしい活動を紹介するとともに、「早すぎる結婚」とさまざまなジェンダーに基づく差別との闘いに不可欠なさらなる意識啓発活動を行なっている。また彼女は、ユース活動家のインド代表として、国連の2020年持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム（HLPF）にも参加した。

「国連事務総長や他のユース活動家のような素晴らしい人たちと会うことができ、輝かしいプラットフォームとなりました。国家は、すべてのジェンダーの人々にとって平等な場所である、ということを保証する多くの質問や回答そして提案は、聞く価値のあるものでした。バングラデシュやウガンダなど、さまざまな国のユース活動家と出会い、新しい友人ができたことは、私にとって大きな励みとなりました。」

街頭でのキャンペーンであれ、彼女が影響力をもつソーシャルメディアのプラットフォームであれ、あるいはインド中の女の子たちにラジオで行うアドボカシーであれ、シャキーナは「早すぎる結婚」を終わらせようという意欲と情熱を持ったユース女性である。そして、彼女の活動が止まる気配はない。

***「昼でも夜でも、私たち若いチェンジメーカーは、いつでもどこでも人々を助けられるように奮闘します。**私たちの夢は、人々の自助努力を助け、国民一人ひとりに恐怖を与えている有害な社会問題に対して、声と手を上げて前進していくことです。人々を助け、彼らの声になるために、この素晴らしいプラットフォームを与えてくれたプラン・インターナショナルに心から感謝します。」*

今こそ行動を！

インド

「早すぎる結婚」に抵抗するインドのユースの声



「娘をなるべく早く結婚させることは、親にとって最も手間がかからず、最も安易な選択肢です。でもそれは、女の子にとっては人生の行き止まりを意味します。」

シャキーナだけでなく494人のユース女性活動家たちが、女の子たちのエンパワーメントと、「早すぎる結婚」や子どもの人身取引、女の子や女性に対するあらゆる暴力と闘う重要な立場にある人々に影響を与えることを目的としたツールの提供とトレーニングを受けた。

495人のユース活動家のそれぞれには、みなに伝えるべきストーリーがある。**GAAは、その数をこえて、全国各地の物怖じしないリーダーたちの個人的な証言の中にあり、彼ら自身の経験や行動が、小さな変化でも大きな変化をもたらすことを証明している。**ディヴィアやスラバニ、サンゲータのように。

サンゲータ：自分自身と多くの女の子たちの「早すぎる結婚」に抵抗して立ち上がる

数年前、サンゲータはいつ「早すぎる結婚」をさせられるのかと毎日を不安に過ごす内気な女の子だった。しかし、現在では、これ以上ないほど変わっている。彼女は、「早すぎる結婚」や10代の妊娠、未就学から解放された未来を求めるコミュニティのすべての女の子たちのリーダーであり、活動家であり、アドバイザーなのだ。

インドのテランガナ州にある人里離れた村で、サンゲータは未亡人となった父と姉妹、祖父母と暮らしている。伝統と慣習に従う家族と農業による収入がわずかであることが原因で、彼女は「早すぎる結婚」の危険に直面していた。



「早すぎる結婚」が当たり前の地域で育つ

「私の住むコミュニティでは、女の子は16歳か17歳までに結婚するのが普通です。私が村で一緒に育った多くの女の子たちは、すでに結婚し、母親になっている人もいます。」

彼女は、自分の住むコミュニティで結婚した女の子たちの人生に「早すぎる結婚」がもたらした弊害を目にし、自分自身の将来と「早すぎる結婚」を強制される可能性を恐れていた。

「みんな、生活が大変だと言っています。中途退学から夫と義理の家族との問題、早すぎる出産による負担など、数えきれないほどです。しかし、彼女たちは結婚に際して選択の余地はなかったのです。勝手に決められたのだから。」

この地域の女の子の生活は、決して楽なものではない。運よく「早すぎる結婚」を免れ、学業を継続することができたとしても、最寄りの大学は非常に遠く、遠距離の通学途中に男の子や男性から嫌がらせや暴力を受ける危険にさらされる。そしてその家族に対する不名誉を恐れ、それがより大きなプレッシャーとなる。

「娘をなるべく早く結婚させることは、親にとって最も手間がかからず、最も安易な選択肢です。でもそれは、女の子にとっては人生の行き止まりを意味します。」







逃れられない提案

15歳になると当然のように、祖父母からのプレッシャーによって、彼女の父親は彼女が最も恐れていた話をし始めた：結婚である。

「涙があふれました。私は何日も泣いて抗議したら、父は引き下がりました。祖父母は反対しましたが、私は学業を続けることを許されました。」

しかし、祖父母や父の圧力に抗しているだけでは、やがて限界が来ることも知っていた。彼女は自分自身で解決策を見つける必要があったため、プラン・インターナショナルが実施するGAAに参加した。

「GAAの一員となったことで、女の子の健康への影響から仕事を持ち、経済的自立の能力まで、「早すぎる結婚」の弊害の真の規模について多くの知識を得ることができました。どうすれば自分の身を守り、自分の権利を守るために立ち上がることができるかという点においても、自信もつきました。」

だから父親に再び結婚を迫られ、避けることができない事態が再度訪れた時に、彼女には抵抗する準備ができていた。

「父は、以前よりもずっと強硬でした。それでも私は看護師になり、自分の仕事を持つという私の人生のチャンスを「早すぎる結婚」が奪うことを父に説明することができました。」

彼女はGAAでの学びを実践することができたのだ。「自分の将来のために、妥協するつもりはありませんでした。そして、もし父に無理強いされたら、自治体の職員に知らせると言いました。それでもダメなら警察に通報する、と。」



インド農村部の父親が受けるプレッシャー

サンゲータの父もまた、プレッシャーを受けていた。シングルファーザーであるアンジャヤは、農作業で生計を立てるのに苦労している。ダウリー（結婚持参金）や教育費など娘にかかる経済的負担に加え、慣習に従うことを当たり前とする周囲が彼にプレッシャーをかける。

*「村の人たちは、機会があれば私に、2人の娘がいるんだから、結婚させなさいと、言ってくるんです。サンゲータが教育を受ければ受けるほど、『ダウリーが高くなる』と言われます」*とアンジャヤは言う。

それでも、伝統的な規範や習慣に従う必要があるからといって、自分の夢を犠牲にするべきではない、という強い決意と意志をサンゲータは持っていた。

「今回は涙が出ませんでした。その代わり、私は自分の声と自信を武器に、自分の権利を守りました。そして、家から始めなければ変化は起きない、と気づきました。私自身が率先して、自分の結婚を阻止したのです。

アンジャヤは幸いにも耳を傾けてくれた。「私は両親やコミュニティの人びとから、サンゲータを結婚させるようプレッシャーを受けていました。しかし、私は学位を取得したいという娘の希望を応援することを約束します。当初は少し抵抗がありましたが、彼女の決意に納得しました。」

父親と向き合うための正しい知識を身につけたことで、サンゲータは、かつては考えもしなかったことを実現し、伝統的な父親の固定観念を変えることができたのだ。

「最初は、『早すぎる結婚』を避けるためにはどんなことでもするという私の自信と信念に、父は驚いていました。最初は渋っていたのですが、理系の学位を取得してキャリアを積むことが一番私のためになるという考えに変わっていきました。」

そして今、アンジャヤは2人の娘の味方であり、彼女たちに真の可能性を見ている。

「サンゲータの自信と決意は、女の子にはできることとできないことがある、という私の認識を完全に変えました。これからは、娘たち2人の夢をかなえるために全力を尽くします。」

*「サンゲータの自信と決意は、女の子にはできること、とできないことがある、という私の認識を完全に変えました。これからは、娘たち2人の夢をかなえるために全力を尽くします。」*と、アンジャヤは話した。

サンゲータが感じていたプレッシャーはもうなくなり、最近では、コミュニティのリーダー的存在として認識されている。ジェンダー平等のさまざまな問題について、女の子たちは彼女に相談するようになり、彼女は大学や地域のイベントで定期的に講演を行い、「早すぎる結婚」についての認識を高めている。

ディヴィア: 女の子の教育を自らの手で

ディヴィアは幼い頃、毎日20kmの道のりを通学しながら、なぜ自分の村のほとんどの女の子が一緒に来ないのか、よく不思議に思い、何かそのためになることを手伝いたいと思ったそうだ。彼女は、この地域の政府の計画にボランティアとして参加し、学校に行けない女の子たちに特別にレッスンをすることを提案した。すると、それは女性一人でできることではない、とはっきり言われたそうだ。

「女性はまともに相手にされないということをこのとき初めて実感しました。抵抗があるのは明らかでしたが、このときの経験から、女の子の教育を向上させたい、という決意がより強くなりました。」



賢いアプローチで対処

それ以来、彼女は女の子たちが教育を受け、「早すぎる結婚」を防ぐ独特かつ賢いアプローチを考え出した。その最初の一歩は、読み書きだ。村のり多くの女の子たちを学校に通わせるために、ディヴィアは密かに読み書きを教えている。

「私は彼女たちの家を訪ね、そこで読み書きの指導を少ししています。そして、『この子はもう読み書きができるのだから、相当賢いのでしょうね』と、その子の親に言うのです。彼女が学校に行ったらどうなることでしょう！、と。」。

ディヴィアの独特の戦術によって、これまでに7人の女の子が学校に通うようになった。彼女は、親たちに娘の可能性を示し、彼女たちが受ける権利がある教育を受けられるようにしたいのだ。女の子たちに力を与え、彼女たちの内なる自信と信念を解き放つために、彼女は少しずつ、小さな一歩を踏み出しているのである。

「私が初めて彼女たちに会ったときは、みんなとても内気でしたが、今はもう自分自身のために立ち上がることを恐れていません。」

しかし、彼女は、もっとやらなければならないことがある、と自覚していた。女の子教育プログラムを通じて、彼女はプランのGAAを知った。

ディヴィアはGAAのユース活動家のひとりとして、女の子とユース女性のための平等な権利と機会の獲得を目指す活動を行うユースグループに参加した。他の女の子たちとともに、彼女は意思決定者に影響を与え、ジェンダーに関して根強く残る誤解に挑戦するためのトレーニングを受けた。

これまでに彼女の村に住む女の子の親たちを彼女が直接説得し、5件の「早すぎる結婚」を阻止してきた。

「私は、『早すぎる結婚」がもたらす健康へのリスクを説明することに重点を置いています。まだ幼い母親から生まれた赤ちゃんに栄養失調や乳幼児の障害が多く発生するのは、若い母親の体が出産に耐えられる体になっていないためです。

また、娘が結婚生活の中で虐待を受ける可能性があることを、親たちに注意喚起しています。」

「まだ幼い母親から生まれた赤ちゃんに栄養不良や乳幼児の障害が多く発生するのは、若い母親の体が出産に耐えられる状態になっていないためです。また、娘が結婚生活の中で虐待を受ける可能性があることを、親たちに注意喚起しています。」

家族の支えがもたらすもの

ディヴィアの熱意は、彼女を支える人々から生まれている。彼女の教育に対する熱意は、決して自分の家族に阻止されることはない。教育の欠如が将来に何をもたらすかを痛感している彼女の両親が、彼女と2人の姉妹を常に支えている。

「私の両親は教育を受けたことがありません。両親は読み書きはできませんが、教育が子どもの将来の鍵であることを理解するのに十分な賢さを持っています。彼らは幸せですが、教育を受けていないため、経済的・社会的な発展が著しく制限されています。」

ディヴィアはかつて教師になることを夢見ていたが、それは今では現実的な目標となっている。家族の支え、彼女の教育への情熱、そしてGAAで得た知識をもとに、彼女は素晴らしい活動を続け、いつか自分の教室のユース女性たちに変化をもたらす教師になることを決意している。





スラバニ:「早すぎる結婚」と人身取引の撲滅を目指す未来の警察官

19歳のスラバニの人生は、最初からいいものではなかった。彼女はこの世に生を受けた瞬間から、村の多くの女の子たち同様、悲惨なジェンダー規範や伝統にさらされてきた。

「私が生まれてから、母はもう子どもを産めなくなりました。父は私を売りたがっていましたが、母はそれに反対して父のもとを去りました。」

「私が生まれてから、母はもう子どもを産めなくなりました。父は私を売りたがっていましたが、母はそれに反対して父のもとを去りました。」

しかし、当初の障壁にもかかわらず、スラバニは現在、10件の「早すぎる結婚」を防止し、50人の子どもたちが学校に戻れるよう支援するチェンジメーカーとなっている。

他の多くのインドの女の子と同じように、スラバニも生まれたとき、単に息子が欲しいという理由で、父親から拒絶された。息子がいればダウリー(結婚持参金)もなく、明確な嫌がらせのリスクもなく、経済的にも安心である。インドにおける伝統と慣習から、娘だけを持つことは父親たちには問題となってしまう。

幸いなことに、スラバニの母親は、そのような考えを否定した。スラバニの母親は彼女を危険から遠ざけ、結婚生活を逃れ、小さな土地を借りて農業を営み、スラバニの学費を工面した。しかし、高校入学直前に母親が大きな事故に遭い、回復に2年を要することになる。その結果、スラバニは仕事を見つけ、学校を辞めなければならなくなった。

数字は嘘をつかない

スラバニは、当時行われていた国勢調査のために、地元の議会で仕事をすることになった。



興味深いことに、ここから彼女の活動が始まったのだ。常に統計を見続けていた彼女は、ある衝撃的な事実を知ることになる。

*「**私の村の108人の女の子のうち、学校に通っているのはたった20人**だと知りました。残りの88人は家にいるか、仕事をしていたのです。」*

母親が回復すると、スラバニは学校に復学できることとなった。ちょうどその頃、GAAの活動が彼女の村で始まり、以前の仕事での気付きから、参加せずにはいられなかった。そこで彼女は、「早すぎる結婚」を阻止し、子どもたちを学校に戻すための影響力を行使する方法を学んだ。かつてのスラバニはが考えもつかなかった概念である。

「早すぎる結婚」の危険が迫っていると聞けば、すぐに市長や校長と一緒にその家族を訪問し、説得を行います。

「インド人の女の子の多くは、結婚すると素敵なドレスを着てちやほやされるからという理由で、結婚を急いでしまうこともあるようです。しかし、結婚後の人生はバラ色ではないことを誰かが教えてあげなければなりません。

そして、彼女たちの両親には、『早すぎる結婚」が引き起こす弊害を伝える必要があります。」

GAAが提供するスキルとコミュニケーション・ツールを使って、彼女は自身のいとこの経験を語り、コミュニティの人々を説得している。

「私のいとこは教授になりたかったのですが、12歳の若さで嫁に出され、その夢は打ち砕かれました。彼女は学校を辞めざるを得ず、家にいて夫と義理の家族に従わざるを得なかったのです。彼女は3回妊娠しましたが、体が未熟であったために3回とも流産してしまいました。学校を卒業することができていたら、自分で生計を立て、独立した人生を切り開くことができたでしょう。」

残念ながら、彼女の村では、こうした話はあまりにもありふれたものだ。彼女の仕事に終わりはない。しかし、彼女のストレートな語り口、相対的な情報、個人的なストーリーが相まって、人々にインパクトを与えている。



「私の村の108人の女の子のうち、学校に通っているのはたった20人だと知りました。残りの88人は家にいるか、仕事をしていたのです。」



スラバニの明るい未来

GAAでの経験は、彼女に将来への確かな足がかりを与えてくれた。彼女は、もっと女の子のためになることをしたい、警察官になりたいと考えている。「早すぎる結婚」や違法な人身取引がまかり通るのは、法の執行が不十分であることが大きな要因である場合が多い。警察官になりたい彼女の目標のひとつは、子どもの人身取引をなくすことだ。

「早すぎる結婚は、その子の人生を奪ってしまう、最悪のことなのです。」

彼女がそう考えるのは、当然だろう。なぜなら、もし彼女の母親に父親と別れる意志と決意がなければ、彼女自身が人身取引の被害者になっていたかもしれないのだから。.

「それが私の原動力です。私だけでなく、私の世代のみんなが変化を切望しているのです。」



ガールズ・アドボカシー・アライアンス（GAA）

GAAは、強制的な「早すぎる結婚」を防止するために、女の子たちがその最前線で活動するもので、4年間の実施期間を経て、素晴らしい成果を生み出し、2020年に完了した。

495人のユースがトレーニングに参加し、「早すぎる結婚」や子どもの人身取引、女の子と女性に対するあらゆる暴力をなくすために、宗教指導者や地域人々、地元当局者に対して、どう影響を与えることができるかを学んだ。それと同時に、このプロジェクトでは女の子が教育を受けやすくなるような支援も行っている。

GAAでは、女の子たちがコミュニティで権力のある立場にある人々に働きかけ、すべての人々が根強く残る強制的な「早すぎる結婚」とその弊害を学べるような啓発活動を行なった。そして親やコミュニティのリーダーたちには、女の子たちに教育を受ける機会を与え、「早すぎる結婚」の犠牲者にしないように働きかけた。これらがユース女性たちのエンパワーメントとなり、彼女たちは活動を継続し、自分たちのコミュニティで多くの人々の生活を向上させている。

子どもの権利が尊重され、守られ、女の子がリーダーとなる力を持ち、差別なく平等に扱われる世界、というプラン・インターナショナルのビジョンを支える中心的役割を、ここでは女の子やユースが担っている。GAAだけでなく、多くのさまざまなプロジェクトは、女の子とユース女性の権利を守るという、プラン・インターナショナルの中核的戦略を実現している。それは、女の子のエンパワーメントに加え、彼女たちのコミュニティにおける「早すぎる結婚」と子どもの人身取引を防止し、撲滅させるための適切なツールと知識を提供することだ。





インドにおける「早すぎる結婚」の影響

インドの早すぎる結婚率ランキング[1]。

アジア太平洋地域で

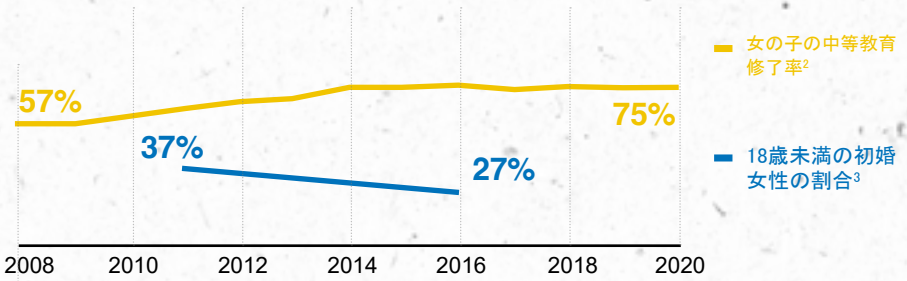
第5位



世界全体で

第47位

より多くの女の子が教育を受けるようになり、「早すぎる結婚」は減り始めている



18歳未満の初婚女性の割合は、2011年から2016年にかけて10%以上減少し、女の子の中等教育就学率は2008年から2020年にかけて18%以上増加。

(1) (August 2021). UNICEF. *UNICEF global databases.* Available at https://data.unicef.org/resources/dataset/child-marriage/ (accessed 20 January 2022).

(2) (2018). UNICEF. *Ending Child Marriage: A profile of progress in India.*

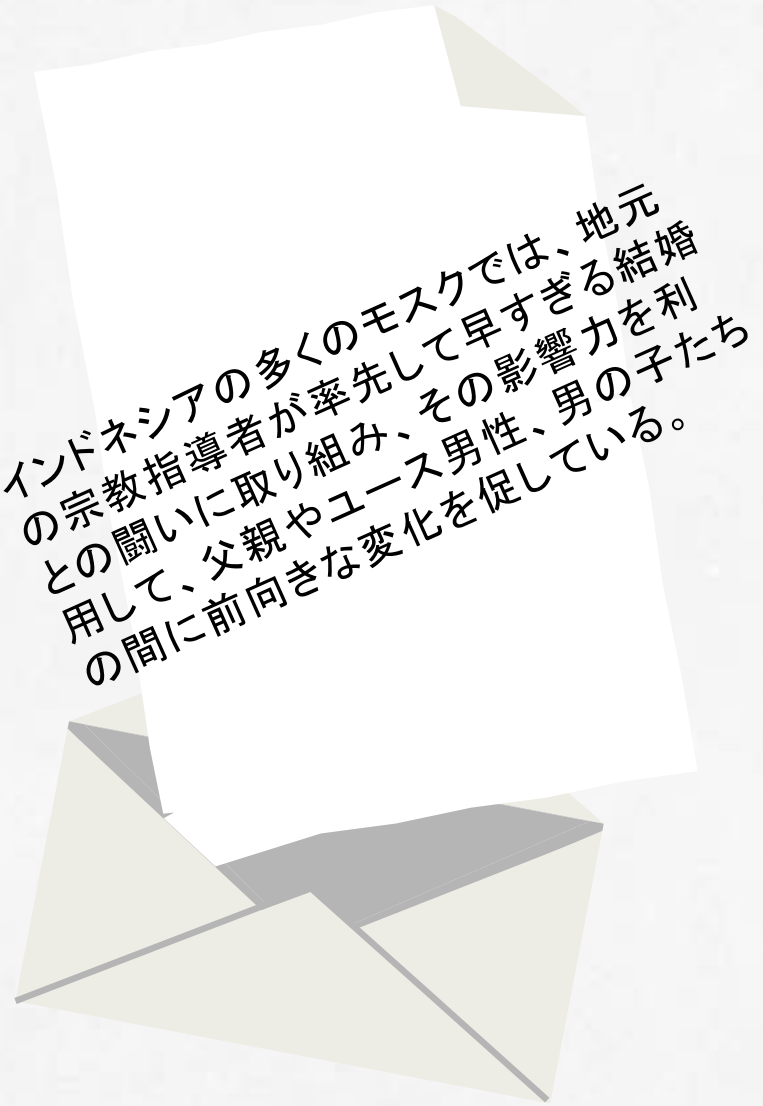
(3) (2021). World Bank. *World Developament Indicators.* Available at https://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.ENRR.FE?locations=IN (accessed 20 January 2022).

今こそ行動を！

インドネシア

メッセンジャー（伝達者）の重要性:

早すぎる結婚と闘うインドネシアの宗教指導者と女の子たち



インドネシアのヤヤサン・プラン・インターナショナル(以下ヤヤサン・プラン)が運営する「Yes I Doプロジェクト」が開始されて以降、この活動は、早すぎる結婚が女の子たちに与える心理的・健康的負担に対して近年危機感を募らせていた多くのイスラム教スンニ派のモスク指導者、ムラ(イスラム教の先生/リーダー)に支持されている。**早すぎる結婚が世界で最も多い国のひとつ**であるインドネシアでは、早すぎる結婚に反対する提唱者がその立場を利用して、早すぎる結婚を助長する可能性のある男性に変化をもたらすことが不可欠である。活動を推進するには、**伝統的な権威元から発信することがより効果的**で、伝統の門番とされる宗教指導者からのメッセージが特に強い影響力をもつことが分かっている。

賢いメッセンジャー

例えばインドネシアの農村に住む、宗教指導者のハジ・ヌール・ロマットは、この有害な習慣をなくすために詩を通して活動を行っている。ハジ・ヌール氏の活動は、ヤヤサン・プランによるコミュニティへの働きかけの一環として行われている。早すぎる結婚の防止と撲滅に取り組んでいるのは、彼ひとりではない。近年、何十人もの他の宗教指導者が反対を唱えている。



*「子どもは神様からの贈り物ですから、その身体的・精神的な健全性を可能な限り尊重すべきです。」*と、ハジ・ヌール氏は言う。

彼は、このテーマに強い思い入れがあり、時には新たに規制を発表せざるを得ないと感じることもある。しかし彼は、わかりやすい詩やことわざ、比喩的な表現を用いて、信徒の意思決定を形成しようとすることが多い。彼の最大の目標は、伝統を破るような重大なアイデアを、聴き手を混乱させることなく伝えることだ。インドネシアでは、貧困が子どもの早すぎる結婚、強制された結婚を続けさせる主な要因の一つとなっている。貧しい家庭の女の子、とりわけ農村部に住む女の子や教育水準の低い女の子は、特に弱い立場に置かれている。早すぎる結婚は、比較的所得の高い地域にも広がっており、社会的・文化的な態度や規範が、この慣習が続く重大な役割を担っていることがわかる。

この10年間、インドネシアは**女性の結婚最低年齢を19歳に引き上げ**、早すぎる結婚防止を国家の優先課題とし、国全体で啓発キャンペーンを開始するなど、早すぎる結婚の削減と撲滅に向けた措置を講じてきた。しかし、その進展は遅く、過去10年間でわずか3.5%しか減少していない。インドネシアがSDGsを達成し、この有害な慣習を完全になくすには、より多くの対策が必要になる。

地域社会にコミュニティベースの子ども保護メカニズムを構築し、機能させることもYes I Doプロジェクトの中心的な要素である。そのためには、**コミュニティでのディスカッション**の開催など、親たちやコミュニティの有力者からの支援を確保することが肝要であった。このような取り組みを通じて、ヤヤサン・プランは、12の子どもの保護メカニズムの設立を支援した。これらは女の子やユース女性を含む**コミュニティの変化を起こす人びと**のネットワークによって運営・主導され、コミュニティの話し合いの促進、事例への対応、被害者の支援も行う。

「子どもは神様からの贈り物ですから、その身体的・精神的な健全性を可能な限り尊重すべきです。」





若いメッセンジャー

19歳のスーチーは、彼女の住む地域のコミュニティにおける子ども保護メカニズムのリーダーの中では最年少だ。彼女は、早すぎる結婚が彼女のコミュニティに与える有害な影響を目の当たりにしてきた。活動に参加する前は、自身の声や行動がどれほどの力を持つのか、考えられなかったという。しかし、今では、地域の変革に欠かせない存在になっている。彼女は、村レベルでの子どもの保護規制を提唱しており、村行政の支援を受けて「早すぎる結婚反対コミュニティ宣言」を制定するなどの取り組みを行っている。

「私の村の子ども保護メカニズムの若いリーダーとして、私は、このコミュニティグループへのユースの関与と積極的な参加がもたらす大きな可能性を感じています。今では、女の子も男の子も、親に強制されることなく、自分たちで結婚を決めることができるようになりました。」

こうした取り組みが成果につながっている。これまでに、175件の子どもに対する暴力が子どもの保護メカニズムに報告され、そのうち111件が早すぎる結婚の事例であった。このうち22件は結婚を取りやめられた。この数字は、コミュニティグループが早すぎる結婚を防止・阻止できる可能性を示している。

メッセンジャーの重要性

上記に述べた成果があるからこそ、ハジ・ヌール、スーチー、そしてYes I Doのクリエイティブな取り組みが重要なのだ。社会変革は、女の子を危険にさらす可能性のある人々の考え方を変えるために、コミュニティで行われている知られざる活動でもあるのだ。多くの若い宗教活動家やその他の影響力のあるリーダーが、コミュニティ内のポジティブな変化のきっかけとなりうる。Yes I Doは数多くの社会変革の取り組みを生み出し、インドネシア社会が早すぎる結婚に対してより進歩的になっていることを示している。

ハジ・ヌールは言う。「*私が重視しているのは、親には子どもの権利を守る義務があることを再認識させることです。子どもへの虐待や、強制された早すぎる結婚は、それに違反する行為です。私の信徒は進歩について深く考えているので、論争になりそうな物事については、メリットとデメリットを十分に理解するようにしている私の伝え方は歓迎されます。*」

Yes I Doプロジェクト

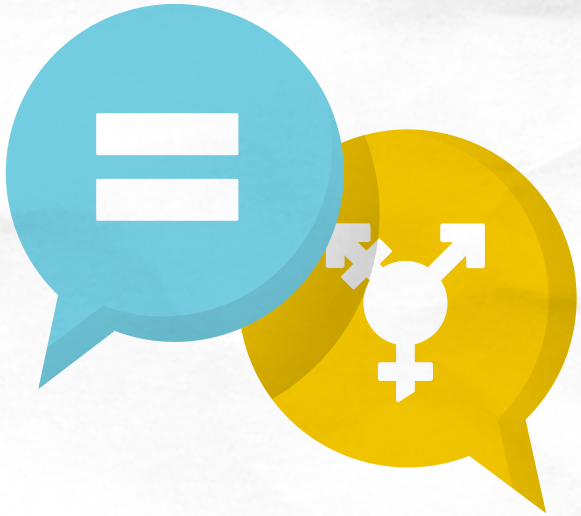
Yes I Doプロジェクトは、インドネシアの3拠点で展開されている。このプロジェクトでは、性と生殖に関する健康と権利に重点を置き、思春期の女の子と男の子に、自身の身体と生活、将来について十分な情報を得た上で決断するための知識と情報を身につけさせることを目的としている。また、コミュニティベースの子ども保護メカニズムの構築や、県・国レベルの政府への働きかけなど、強固なコミュニティの関わりも、このプロジェクトの特徴である。



今こそ**行動を！**

インドネシア

10代の若者が性の健康と早すぎる結婚について正しい答えを得られるよう支援する。



ロンボク島北部では、教室内が変化しつつある。多くの学校で、かつてはタブーとされていた議論や教師への質問を、10代の若者が自由にする光景が見られるようになったのだ。

学校、音楽、最新のゴシップといった通常の話題に加え、早すぎる結婚や早すぎる妊娠、親になること、性と生殖に関する健康、男の子と女の子の役割と責任といった問題についても、生徒たちは集まって話し合っている。「女の子は若くして結婚してもよいのか」といった質問が、当たり前のように投げかけられ、答えてられている。しかし、議論が起こることから、10代の若者たちの普通の集まりではないことは明らかだ。

ヤヤサン・プランが仲間同士の**情報交換の場**として設立し、支援する「Let's Talk」プログラムの一環として、多くの10代の若者が定期的に集まっているのだ。多くの男の子や女の子が、このようなテーマを公の場で話すことを恥ずかしがる中、Let's Talkでは、10代の若者が、自分の心の中にあるデリケートな話題を、生産性のある、情報豊かなピアカウンセリンググループで議論できるのだ。

マタラム市と北ロンボク県の両政府パートナーは、Let's Talkが思春期の子どもたちが互いに学び合うことができる可能性を信じて、このプログラムの実施を支援している。

*「マタラムと北ロンボク県の10代の若者が、早すぎる結婚の悪影響について理解を深め、より良い健康的な生活を選択できるようになることを願っています。」*と、マタラムの保健局長であるH・ラル・ファトウィール・ウザーリ博士は、Let's Talkプログラムの開始にあたって述べた。

このプロジェクトの参加者で、ピアエデュケーターの一人であるベラは、次のように語っている。*「多くのことを知り、今まで学んでこなかったあらゆるポジティブな知識を得ることができたので、とても幸せだと感じています。また、自分の人生に影響を与えるかもしれないポジティブな行動とネガティブな行動の違い、特に危険な行為を避けることや早すぎる結婚の慣習を拒否することを理解するようになりました。」*

Let's Talkの目的は、西ヌサ・トゥンガラ州において、ユース、特にCOVID-19の影響を受けた**13歳から18歳の弱い立場に置かれた女の子たち**が、自分の性と生殖に関する健康について十分に考えた意思決定を行い、危険な行為や早すぎる結婚の防止に貢献できるようにすることである。この活動は、10代の若者は同年代から影響を受けやすいので、その同調圧力をポジティブな力として使うことができるという考えを前提にしている。このプロジェクトの最終目標は、10代の若者が自身の可能性を最大限に発揮できるように手助けすることだ。

重要なのは、Let's Talkが女の子だけのものではないことだ。10代の男の子と女の子が、互いに学び合うことを推奨している。彼らは早すぎる結婚の原因と影響についてオープンに話し合い、性と生殖に関する健康と権利について最善の決断をするようお互いに働きかけている。同じことは、COVID-19のパンデミック時の早すぎる結婚の防止についても当てはまる。

*「ピアエデュケーターの役割を引き受けた後、私が感じた変化は、自分の生殖器について理解したこと、早すぎる結婚とは何か、その危険性とは何か、どうすれば早すぎる結婚を防ぐことができ、それを他の人にも伝えることができるかを理解したことです。」*と、ピアエデュケーターの男の子、イ・デワは言った。





「マタラムと北ロンボク県の10代の若者が、早すぎる結婚の悪影響について理解を深め、より良い健康的な生活を選択できるようになることを願っています」

模範となる学校

早すぎる結婚対策には、コミュニティのあらゆる分野からの支援が不可欠である。その一環のLet's Talkを効果的に実施するためには、先生や校長先生、保護者の参加が不可欠だった。

これに関して、あるロンボク島の中学校が先進的な取り組みを行っている。学校では毎年、早すぎる結婚の被害者となる生徒がいる。この地域の多くの学校と同様、貧困、離婚、家庭内暴力、ネグレクト、ドラッグ、早すぎる妊娠など、早すぎる結婚につながることの多いさまざまな社会問題を抱えた生徒を受け入れている。しかし、今この学校は変化の道しるべとなっている。

長年にわたって早すぎる結婚との関連性を注意深く見てきたH.スーラジ校長は、生徒への強い思いから、Let's Talkに直接関わるようになった。彼は、学校の生徒全員が必ず活動に参加するよう促し、親との対話も積極的に行うことで子どもの結婚を思いとどまらせるようにしている。

*「第一に、すべての生徒がお互いを大切にすること、そして教師が生徒の意欲を高めることが何よりも重要です。私が定年を迎える前に、この学校から早すぎる結婚をなくすべきです。**Let's Talk** はすぐに結果を出してくれました。生徒たち、特にピアエデュケーターは自信をつけ、心を開いています。彼らの活動は、同世代のサクセスストーリーになることでしょう。」*

インドネシアでは、早すぎる結婚や早すぎる妊娠が深刻な問題になっている。**北ロンボクでは、2019年だけで2,000件を超える早すぎる妊娠が報告されている。**2020年にこの地域で発生した早すぎる結婚の介入要請は805件で、332件の早すぎる結婚の介入要請が登録された**2019年から59%増加した。**

特にロンボク島北部のような農村部では、その原因は貧困や文化的慣習など多岐にわたる。しかし、もうひとつの要因として、10代の若者が性と生殖に関する健康についての情報や施設にアクセスする機会が限られていることが挙げられる。COVID-19によって医療施設は限界を迎え、他の医療サービスがオンライン化されたため、この状況は悪化している。





ヤヤサン・プランは、性の健康や早すぎる結婚について話すことの恥ずかしさやスティグマを取り除くことで、このプロジェクトが多様な人々とのコラボレーションを生み出し、若者の生活と健康にポジティブな変化をもたらしたと信じている。

*「早すぎる結婚の影響、健康な体の維持、ソーシャルメディアの上手な使い方、健康的な生活、健全な友人関係の維持、ソーシャルメディア上の否定的なコメントやコンテンツに近づかないことなどについてより知ることができました。自分の体をもっと大切にし、友人には危険な行為をしないよう、また、まだ子どものうちは結婚しないよう、これからもアドバイスしていきたいと思います。」*と、ピアエデュケーターの女性の一人であるアーケンジは語る。

「自分の体をもっと大切にし、友人には危険な行為をしないよう、また、まだ子どものうちは結婚しないよう、これからもアドバイスしていきたいと思います。」



Let's Talkプロジェクト

ヤヤサン・プランは、早すぎる妊娠、早すぎる結婚、薬物乱用、ジェンダーに基づく暴力といったテーマについて、同世代の仲間を教育することができるユースの教育者グループを作るために、新しく**Let's Talkプロジェクト**」を立ち上げた。性と生殖に関する健康についての情報とサービスへの不十分なアクセスが、女の子の健康的な生活を妨げる要因であると確認された。ジェンダーに配慮した環境を通じて、ユースや子どもたち、男の子や女の子は、性と生殖に関する健康上の権利をサポートする情報やサービスを利用でき、将来のための正しい決断ができるようになる。

北ロンボクでは、マタラム市長、西ヌサ・トゥンガラ州教育文化局（NTB）、NTB保健局、NTB女性のエンパワーメント・子どもの保護・人口管理・家族計画局、NTB子どもフォーラム、マタラム市、NTB子ども保護局など、さまざまなコミュニティ関係者によってLet's Talkプロジェクトが強く支持されている。

インドネシアにおける早すぎる結婚の影響

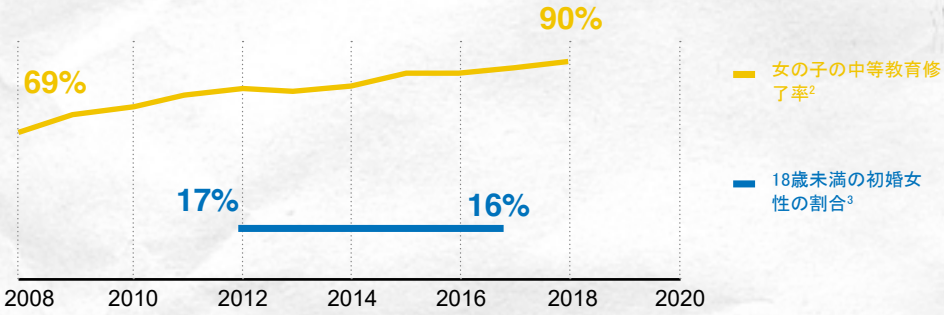
インドネシアの早すぎる結婚率ランキング[1]。

アジア太平洋地域で
17位



世界全体で
83位

女の子を教育し、早すぎる結婚をなくす。



18歳未満の初婚女性の割合は2012年から2017年にかけて1%減少し、女の子の中等教育就学率は2008年から2018年にかけて20%以上高くなっている。



(1) (August 2021). UNICEF. *UNICEF global databases*. Available at https://data.unicef.org/resources/dataset/child-marriage/ (accessed 20 January 2022).

(2) (2018). UNICEF. *Towards Ending Child Marriage: Global trends and profiles of progress.*

(3) (2021). World Bank. *World Developament Indicators*. Available at https://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.ENRR.FE?locations=ID (accessed 20 January 2022).

今こそ行動を！

ラオス

ラオスの女の子に教育を受けさせるための障壁を取り除く

重い米袋を頭に載せ、溢れるほどの本をバッグに詰めた11歳の女の子カイ。彼女のクラスメートたちは、長い距離を満面の笑みで不器用ながらも楽しそうにスキップして学校に通う彼女の姿に、いつも驚かされる。しかしカイは、教育を受けることが難しかった過去に比べたら、重い荷物を運ぶことなんて全く気にならなかった。



l彼女はかつて、中学を卒業することだけが夢だった。毎日学校が終わると、彼女はラオス北部の山中にある農村部の家に戻り、家でも勉強を続けながら、学校に通って母や祖母とは全く違う未来を送ることを想像していた。

しかし、家族の経済的な負担が大きくなるにつれて、彼女が最も恐れていたことが現実のものとなっていった。

「中等教育を受けさせるお金がなく、学校を中途退学させるかもしれないと両親から聞かされた時は泣きそうになりました。両親もそんなことはしたくないと思っていることは分かっていましたが、他に選択肢はなかったのです。」

しかし、彼女は希望を見出した。ラオスのプラン・インターナショナルの奨学金制度のおかげで、彼女の不安は払拭され、勉強を続けることができたのだ。そして今、彼女は毎日楽しそうにスキップして学校に通っている。

しかし、多くの女の子たちにとって、貧困による中途退学後に再び教育を受ける道は、大きな困難を伴い、しばしば早すぎる、強制された結婚につながる。ラオスの農村部では、早すぎる結婚と不就学との間に強い相関関係があり、**教育を受けていない20－24歳の女性の60%近くが18歳までに結婚しているのに対し、中等教育を修了した女性は16%であった。**

だからこそ、プラン・インターナショナルでは、包括的な性教育を含む教育を、早すぎる結婚撲滅の最前線に位置づけているのだ。コミュニティリーダー、両親、教師、校長、地方行政組織など、北部のコミュニティとの協力のおかげで、若い女の子の教育に対する障壁は取り除かれつつあり、早すぎる結婚の件数も減少している。



学生クラブ：早すぎる結婚に対抗する安全な空間

この変化の原動力となっているのが、プランの協力のもと、教育・スポーツ省がラオス北部の農村部の中学校に設立した数々の学生クラブである。協力し合い、お互いを高め合える安全な空間として、クラブでは男の子を含む若者たちが、早すぎる結婚の悪影響、ジェンダー平等、性と生殖に関する健康、教育の重要性を含む、女の子の権利について話し合い、学ぶことができる。

*「性と生殖に関する健康と権利の理解に、学生クラブの活動が役に立ちました。女の子や女性になぜ月経があるのか、いつ結婚したら早すぎるのかがわかりました。だから、結婚の準備ができたら自分で決めると思います。今じゃない！」*と、12歳の学生クラブメンバー、ヴァニッサは話した。

このプロジェクトは効果を発揮している。ヴァニッサの学校では、**中途退学率が2018年には11%だったのが、2021年には7%に減少した。**この効果は北部地域全体に見られ、婚姻数の減少と多くの学校で出席率の上昇が見られる。生徒も教師も、この好ましい変化の兆しを、学生クラブのおかげだと考えている。

*「彼らは自身の権利、特に教育を受ける権利について学びました。今では、私のところに悩みを打ち明けに来る女子生徒もいて、解決策を見出すことができるようになりました。これは、私たちの学校の大きな変化です。」*と、28歳の教師で学生クラブのファシリテーターでもあるシモーヌは言う。

“若い女子生徒たちは、クラブが自身の将来についてより良い準備をするためのヒントを与えてくれると言う。

*「クラブに入る前は、女の子の権利についてあまり知りませんでした。今年、中学校を卒業したら、結婚して子どもを産むのが夢だったのですが、今は違います。女の子には教育を受ける権利があり、良い収入の仕事に就く機会も得られる、とわかりました。」*と、学生クラブのメンバーである14歳のケントングは言う。





奨学金による女の子たちへの支援

これらのクラブは、今まで導けなかった考え方を女の子に与える原動力となっている。しかし多くのコミュニティでは、依然として教育へのアクセス不足と不平等が存在し、最も急迫した問題であることに変わりはない。

*「親は第一子、特に女の子に、学業を犠牲にして弟妹の世話をし、家計に貢献するよう促すのが一般的です。」*と、北部州の村長は説明する。

女の子たちが世界を広げ、自身の権利について学ぶことができるようにするためには、より農村部や民族的なコミュニティに住む多くの人々の教育へのアクセスを改善することが不可欠である。

*「家庭が貧しいと、親は娘の教育を第一に考えるべきなのに、『娘を結婚させるしかない』と思ってしまうのです。」*と、15歳の学生クラブの女の子、タモンは言う。

このような状況があり、奨学金が貧しい生徒が学校に通い続けるのを助けているのだ。保護者や教師、村当局、地方教育局と協力し、教育費を工面できない家庭の子どもたちが、必要な支援を受けられるようになった。昨年ラオスのプラン・インターナショナルは、カイと同じラオス北部の思春期の女の子767名と、思春期の男の子11名に奨学金を提供した。

カイの母親は、娘が受けたサポートに感謝している。

*「もしカイが支援を得られなかったら、彼女も途中で学校を辞めて、私たちと一緒に畑で働くことになっていただろうと思います。中学校に行くには、小学校よりもさらにお金がかかるからです。」*と、11歳のホウムは話す。

奨学金を得たもう一人の生徒も、この経済的な支援の情報が他の女の子たちにも届くことを願っている。

「この奨学金によって、教育はすべての子どもが必要とする重要なものであるということを両親や村の人々が理解し、子どもの教育支援を見出す一助となることを願っています。」

ラオス北部では、女の子たちを早すぎる結婚や中途退学に追い込む要因が多岐にわたり、複雑に存在している。女の子の教育への理解がない上に、女の子と女性は家事全般を担うべきという伝統的な考え方と、家庭内暴力や早すぎる結婚が慣習化している。さらに、気候変動が引き起こすこれまでにない降雨のため、多くの家庭で畑の収穫が減り、子どもたちのための教育費用も確保が難しくなっている。多くの農村では近くには中学校がないこともあり、貧困家庭では子どもの教育まで余裕がないことが多く、特に女の子がその影響を被ることになる。

女の子は、教育機会への障壁が多岐にわたり、深刻な影響を与えている。しかし、学校へのアクセスや環境を改善することで、女の子たちを中途退学や結婚に追いやってきた要因のいくつかは現在改善されつつあり、自由に学校に通えるようになった女の子たちからは快活な様子が見受けられる。



ケーンソンの学校では、学生クラブが本格的に活動を開始し、男の子にも女の子にも知識が行き渡ったことで、彼女は自信がつき、学ぶ準備ができたと感じている。*「男の子も女の子も自身の権利について理解が深まりましたし、女の子は自身のために恐れずに意見が言えるようになりました。変化には時間がかかるし、すぐには起こらないことは理解していますが、この進歩には満足しています。」*



カイの奨学金も、彼女に希望を与えた。「*奨学生に選ばれた女の子の1人であることを幸運に思うし、嬉しかったです。お米や勉強道具を持って、毎日何時間も歩かないと学校には辿り着けませんが、それでも学校に通い続けることができるのです。*」

ラオスにおける早すぎる結婚の影響

ラオスの早すぎる結婚率ランキング[1]。

アジア太平洋地域で

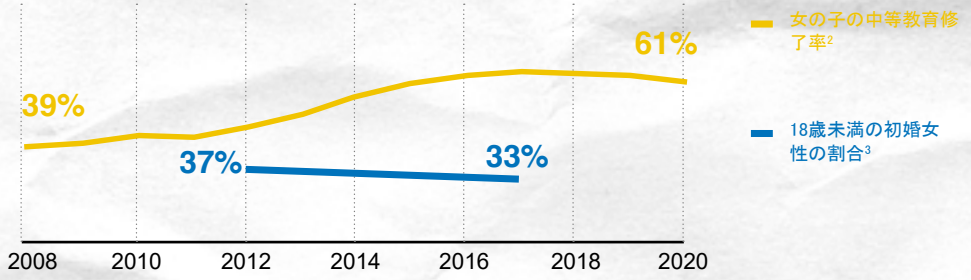
3位



世界全体で

27位

女の子を教育し、早すぎる結婚をなくす。



18歳未満の初婚女性の割合は2012年から2017年にかけて4%低下し、女の子の中等教育就学率は2008年から2020年にかけて約22%高くなった。

(1) (August 2021). UNICEF. *UNICEF global databases*. Available at https://data.unicef.org/resources/dataset/child-marriage/ (accessed 20 January 2022).

(2) (2012). Ministry of Health/Lao, and Lao Statistics Bureau. *Lao Social Indicator Survey 2011-12*; (2018). *Lao Statistics Bureau, and* UNICEF. *Lao Social Indicator Survey II 2017, Survey Findings Report*.

(3) (2021). World Bank. *World Developament Indicators*. Available at https://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.ENRR.FE?locations=LA (accessed 20 January 2022).

今こそ行動を！

ネパールでのケース

声をあげよう。

ネパールの早すぎる結婚に反対する若い力、声



「若くして結婚していたら、それは自殺したのと同然だったでしょう。妊娠していたかもしれないし、出産することになれば肉体的にも精神的にも負担が大きかったことでしょう。結婚したら、義理の家族に従わなければならないし、自分の運命も彼らに左右されるでしょう。私の人生は暗くて孤独なものになっていたかもしれません。」

ラクスミは16歳のとき、両親から「夫が見つかった」と告げられた。彼女は幸福感を感じるどころか、家を飛び出し、「子どもクラブ」のプログラムに参加するメンバーに出会った。そのプログラムでは、公衆衛生、教育が推し進められ、強制された早すぎる結婚をなくすための活動がなされていた。彼女は、このクラブで「今の段階での結婚は自分には早すぎる」と説明し、結婚しないための自信を手に入れることができたという。現在、ラクスミはまだ結婚しておらず、他の女の子たちが早すぎる結婚から解放されるよう手助けをすることに意欲を燃やしている。

過去も現在もネパールでは、親から逃げることは、家族の基盤を揺るがす行動とみなされているのかもしれない。**早すぎる結婚は依然として根強く、頑固に残っている。**ネパールでは毎日のように、コミュニティで弱い立場に置かれている何十人もの女の子が、自分の意思に反して早すぎる結婚をさせられている。37%の女の子が18歳未満で結婚し、10%が15歳未満で結婚するネパールは、南アジア地域で早すぎる結婚の実施率が、3番目に高い国である。



「私たちはコミュニティで、4件の早すぎる結婚を未然に防ぐことができました」

プランが支援する「子どもクラブ」の活動によって、ラクスミのような若い女の子による自発的な活動は、ネパール全土に大きく広がっている。このプロジェクトでは、**早すぎる結婚という有害な伝統の根本原因を特定し**、それに**対処**し、変革の機会を見いだすための総合的なアプローチをとっている。子どもクラブでは、女の子が定期的に集まり、子どもの権利、性と生殖に関する健康、早すぎる結婚の負の側面について話し合うことができる。

他の国々と同様、ネパールでも早すぎる結婚がもたらす悪影響は深刻だ。早すぎる結婚は、しばしば女の子の子ども時代に終止符を打つことになる。多くの女の子は学業を断念せざるを得ない。早すぎる結婚をした女の子は、あまりにも早く親になり、そのことが本人や家族の健康に悲惨な結果をもたらす可能性がある。早すぎる妊娠が原因で、時には死といった悲惨な結果を招く可能性もある。新婦が幼いと、家庭内暴力に晒されるリスクも高くなる。





2段構えの結婚の伝統に抗う

プーナムは、たった13歳のときに年上の男性との結婚を強要され、大きな苦しみを体験した。プーナムの住むコミュニティでは、結婚は2段構えで行われる。まず、結婚の儀式がある。そのあと、ガウナと呼ばれる儀式が行われてから、新婦は夫と義理の家族のもとで暮らすようになる。ガウナは、子どもが思春期を迎える前に結婚させられるようなコミュニティにおいてよく見られる。

しかし、これらのうち最初の儀式は、婚約ではなく、むしろ結婚に近いもので、解消するのが難しい場合がある。結婚が決まりガウナを待つ子どもたちは、自分はすでに結婚をしているという認識をもつことによって、子どもとして過ごすべき時間の全体が失われてまったと表現することが多い。ガウナは頻繁に結婚をするにはあまりに若すぎる間に行われるのである。

プランが支援する思春期クラブに参加したことは、プーナムにとって大きな変化を引き起こす結果となった。

「私の熱意は、子どもたちに幼い頃から早すぎる結婚は容認できない、そのような提案は拒否すべきだということを教えることです。」

*「思春期の女の子クラブの会長になった今、私の人生は完全に変わりました。私は早すぎる結婚の反対を訴えるようになり、自信がつき、自尊心も高まりました。研修やワークショップ、クラブの代表として他地区を訪問するなど、さまざまな活動に参加する機会を得ました。**私たちはコミュニティで、4件の早すぎる結婚を未然**に防ぐことができたのです。」*

プーナムの物語は複雑なものだった。彼女は何年もの間、噂話プやコミュニティからの批判にさらされ、なぜ夫と結婚し身を落ち着けずに学業を続けるのか理解されなかった。

プーナムは結婚しており、義理の家族が何度も彼女を家に連れていこうとしたが、そのたびにすぐに実家に帰ってしまった。「夫が、夫の家族にお金がないから勉強をやめてほしいと言うので、父が12年生の入学金を払ってくれました。今では学業を修了することができています。それ以来、義理の家族のところへめったに行くことはありません。彼らは私について、そして私の成長に関心を示しません。」

ラクスミのケースでは、子どもクラブのファシリテーターが、ネパールにおけるプランの実施パートナー組織のひとつである地元のNGOと連絡を取るに至った。そして、その団体の代表者がラクスミの両親を訪ね、結婚式を行わないように説得したのである。

ラクスミは、自分が自由になれたことに感謝し、すべての女の子が自分と同じように情報やサポートを確実に受けられるようにしたいと願っている。

「私たちは女の子に力を与えなければなりません。より多くの女の子が自身の権利を認識すれば、彼女たちの状況はより良くなるはずです。」

そして、プランの支援のおかげで、現在21歳のプーナムは、教師になるための勉強を続けている。

「私の熱意は、子どもたちに幼い頃から早すぎる結婚は容認できない、そのような提案は拒否すべきだということを教えることです。」



今こそ行動を！

ネパールでのケース

ネパール東部の農村の路上で、若い女性がパフォーマンスをしている子どもたちや地元の人々が足を止め夢中になって見ている。一見して楽しいパフォーマンスは簡単には理解されないかもしれない。しかし、しばらくすると、彼女が紡いでいる物語が明らかになる。それは、早すぎる結婚やジェンダーに基づく差別や暴力に対する警告である。彼女は、観客たちに創造的な方法で情報を伝え、そして楽しませることを一度に行うので、ほとんどの人が、これは通常の素人による演技ではない、と納得するだろう。

記憶に残るパフォーマンス:
ユース・クラブの
女性メンバーは
早すぎる結婚に対して
警鐘を鳴らすならすことに
情熱をを注ぐ





その若き演技者は19歳のサビナである。サビナの物語はプランのプロジェクトが支援するユース・クラブのもうひとつのサクセスストーリーである。ネパールの地方に住む他の多くの女の子たちと同様に、サビナもクラブの安全な環境のもとで自信を深めている。彼女は、ジェンダー平等や、性と生殖に関する健康、早すぎる結婚の負の側面について仲間たちと自由に話し合い、悩みを演技への情熱にぶつける勇気を得たのだ。

「私は大きな夢を持つ女の子です。でも、その道はいつも安全で簡単とは限りません。」

ネパールに代表される早すぎる結婚が行われている国では、早すぎる結婚の撲滅はなかなか進まない。ネパールでは、幼い花嫁は、子どもそのものであり、時には12歳未満であることもある。また多くの場合、婚礼は自ら望んだ結婚というよりも、貧しい家庭の間で行われる取引である。女の子の新婦は、食事を作ったり、家畜の世話をしたり、畑仕事をしたりすることができる貴重な労働力となっている。

そんな運命がサビナを待っていたかもしれない。

「持参金が日に日に高くなるという両親のささやきを耳にしました。家にはあまりお金がないので、私は家族の負担になると言われました。両親が安心して暮らせるように、見知らぬ男の手が私を出迎えるのを許しなさいと言われました」。



そんな会話が耳に入り、サビナは自分の将来に疑問を抱くようになった。「これが女の子であるということなの？これは私が望んだことではない。私の夢は、学校に通い続けて、家族がよりよい生計を立てられるようなスキルを身につけることでした。」

だが、彼女の村にできたユース・クラブが、彼女の進路を変え、夢へと向かわせることになった。

「プラン・インターナショナルの人たちは、私が夢に向けて奮闘するために必要なことを教えてくれました。」

現在、彼女はクラブのファシリテーターとして活動し、暗い未来に目を向けていたユースや子どもたちにとってクラブが避難場所であるということを確かにしている。



「プラン・インターナショナルの人たちは、私が夢に向かって奮闘するために必要なことを教えてくれました」

「子どもたち、特に女の子が直面する問題について、子どもたちが話し合い、参加し、考えを共有できるさまざまなプロジェクトや活動を経験することによって、私は自分の中に、立ち上がって変化を起こそうとする前向きな力を見つけました。」

子どもクラブでは、サビナと彼女の友人たちが定期的に集まっている。話し合いは女の子たちによって主導され、女の子たちが懸念する問題を中心に進む。議題は痛みや苦しみを連想させるような話題に及ぶが、クラブは遊び心にあふれ、それゆえにサビナの創造的な作品につながっている。

サビナのようなファシリテーターに導かれ、過去に避けられたかもしれない話題、例えば子どもの権利、性と生殖に関する健康、早すぎる結婚などの問題が、諦めではなく、立ち向かうための機会として打ち明けられるのだ。

サビナはまた、早すぎる結婚のないコミュニティと、すべての子どもたちが就学することを提唱している。「女の子が直面するのは悲惨なことです。女の子に自分の権利を知ってもらい、一緒に運命を変えていきたい。」サビナの献身的な活動は、彼女のコミュニティで多くの早すぎる結婚を阻止することに成功した。

彼女は女の子の権利を守るために戦うものの重要な味方であり、コミュニティ活動を組織し、国レベルで提唱を行っている。最近では、彼女は、彼女のコミュニティの子どもクラブネットワークのリーダーに満場一致で選ばれている。

「力を合わせることで、女の子の力を引き出すことができます。すべての女の子に目が行き届き、耳を傾けられ、大切にされるまで、私たちは立ち止まりません。私たちは、自分の人生だけでなく、コミュニティの人々のためにも、変化の波を起こすことができます。たとえ今は小さな声でも、少しずつ、大きな声になっていくのです。」



ネパール

「女の子が直面するのは悲惨なことです。女の子に自分の権利を知ってもらい、一緒に運命を変えていきたい」

ネパールにおける早すぎる結婚の影響

ネパールの早すぎる結婚率のランキング[1]。

アジア太平洋地域で

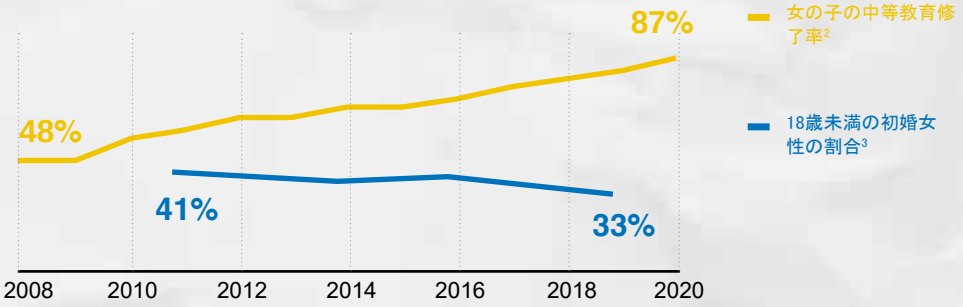
第2位



世界全体

第26位

女の子を教育し、早すぎる結婚をなくす。



18歳未満の初婚女性の割は2011年から2019年にかけて約8%減少し、女の子の中等教育への就学率は2008年から2020年にかけて38%以上増加している

(1) (August 2021). UNICEF. *UNICEF global databases*. Available at https://data.unicef.org/resources/dataset/child-marriage/ (accessed 20 January 2022).

(2) (2012). MOH/Nepal, New ERA/Nepal,and ICF. Nepal Demographic and Health Survey 2011;
(2015). Central Bureau of Statistics. Nepal Multiple Indicator Cluster Survey 2014;
(2017). MOH/Nepal, New ERA/Nepal,and ICF. Nepal Demographic and Health Survey 2016;
(2020). Central Bureau of Statistics. *Nepal Multiple Indicator Cluster Survey 2019, Survey Findings Report.*

(3) (2021). World Bank. *World Developament Indicators*. Available at https://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.ENRR.FE?locations=NP (accessed 20 January 2022).

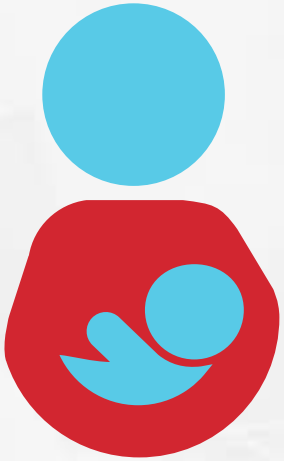
今こそ行動を！

フィリピンでのケース

チャイルドブライドから新進気鋭の起業家へ:

早すぎる結婚の防止を情熱を持ち、訴えるユース女性部員

「15歳で結婚し、それがきっかけで学校を辞めました。その1年後には、私は母になりました。今は自分でビジネスを営んでいます。」 ケイト、18歳、フィリピン



ケイトは、今日も繁盛したコンビニエンスストアのシャッターを閉めながら、家族をどう養うかという過去の悩みや、激動の時代を遠い記憶のように感じ、別の人生からのエコーのように感じることがある。

ケイトは15歳で妊娠して結婚し、わずか16歳で母親になった。まだ子どものときに結婚させられたことによって、ケイトと彼女の夫は突然の緊張と苦痛に見舞われた。彼女は学校を辞め、家庭を築いた。彼女は貧困の瀬戸際で生きていた。しかし、その後、事態は期待の持てるものになった。プランは、ワークショップや研修、助成金を通じて、ケイトが起業家になることを支援した。今は、いつか大学を卒業することを夢見ている。

フィリピン全土の中学校で包括的な性教育が行われていないため、ケイトや彼女の夫のような多くの女の子や男の子は、自分たちが結婚したときに直面する問題について知らないのだ。



「16歳で母になり、人生は本当に難しいものだと実感しました」

フィリピンの法的な結婚年齢は18歳からだが、25～49歳の女性の2%が15歳になるまでに結婚していると報告されている。

伝統的なジェンダーの固定観念や役割のために、多くのコミュニティで女の子は若くして結婚し、学校を中途退学し、仕事、母としての役割、家事の生活を始めることを余儀なくされることがよくある。

ケイトの住む海岸沿いのコミュニティでも、若い女性の多くがとても早くに結婚し、妊娠してしまうのだ。漁業や農業を主な収入源とする家庭では、教育や女の子の福祉は優先されないことが多いのだ。

中途退学は、性別に関係なく、すべての思春期の若者に関わる問題である。しかし、プランの調査によると、結婚した女の子の多くは、特に早すぎる結婚が自発的に行ったものではない場合、羞恥心から、あるいは妻や母親としての新たな責任から、学業を諦めざるを得ない状況にあることが指摘されている。また、経済的な余裕がないと、女の子たちは学校を早い段階で中途退学してしまうこともある。

「16歳で母になり、人生は本当に難しいものだと実感しました。家族のために、人生の舵取りをし直し、一歩ずつ歩んでいかなければなりませんでした。とても若くして自分の家族を持ったことが、私を変えました。」

夫の実家に頼らざるを得なかったケイトは、自分の子どもに必要なものを与えられないことに、自責の念と罪悪感を持っていた。そんな**彼女の背中を押し、変化を促したのは、COVID-19のパンデミック**だった。彼女はもう一度、教育を受けなければならないと決めたのだ。彼女はまず、プランの「リーチ・ミンダナオ・プロジェクト」（ユースの**経済力強化プログラム**の一環）が実施する、コミュニティを基盤とした企業開発に関するワークショップに参加した。そこでケイトは、事業計画書の作成、財務管理、小規模な企業の経営について学んだ。新しいスキルを身につけ、ワークショップに参加した他のユース女性たちから刺激を受けたケイトは、新たに得た起業のためのスキルを生かし、自分のビジネスを始めることを決意した。

また、プロジェクトによって新規事業立ち上げのためのスタートアップ資金が提供され、ケイトはコンビニエンスストアをオープンすることができた。

「家族のために、人生の舵取りをし直し、一歩ずつ歩んでいかなければなりませんでした。とても若くして自分の家族を持ったことが、私を変えました。」

わずか数カ月でケイトの店は繁盛し、彼女はその収益をもとに多角化をすすめ、魚の販売と夜の屋台という2つの新しいビジネスを立ち上げたのだ。

「今、私は家族を養うことができています。また、赤ちゃんの将来と、学校に戻ったときのために貯金も始めています。」

この支援を通じて、ケイトは自分の可能性や価値に気づき、家族のために安心できる未来を作るための知識を得ることができたのだ。若い頃に嫁に出されたにもかかわらず、彼女は自分の人生をより良いものに築き上げることができたのだ。

ビジネスの成功は、家族にとってずっと理想的な経済的安定をもたらしたが、彼女の頭から教育が離れることはない。 彼女は過去から学び、教育によってさらに力をつけたいと考えている。

*8歳になったケイトは、「私はまだ勉強ができると思います。学校に戻って、大学卒業という夢を追いかけたいです。そして、仕事をしながら、ビジネスを展開し、コミュニティに還元していきます。」*と話す。



「また、赤ちゃんの将来と、学校に戻ったときのために貯金も始めています。」

リーチ・ミンダナオ・プロジェクト

リーチアウト・トゥ・アジア財団の助成によるリーチ・ミンダナオ・プロジェクトでは、包摂的な教育と柔軟な学習方法が推進された。その目的は、若者の能力を強化し、技術や職業スキルを充実させることで、適切な雇用を得たり、自分のビジネスを始めたりできるようにすることであり、2021年1月に終了した。





フィリピンにおける早すぎる結婚の影響

フィリピンの早すぎる結婚率のランキング[1]。

アジア太平洋地域で

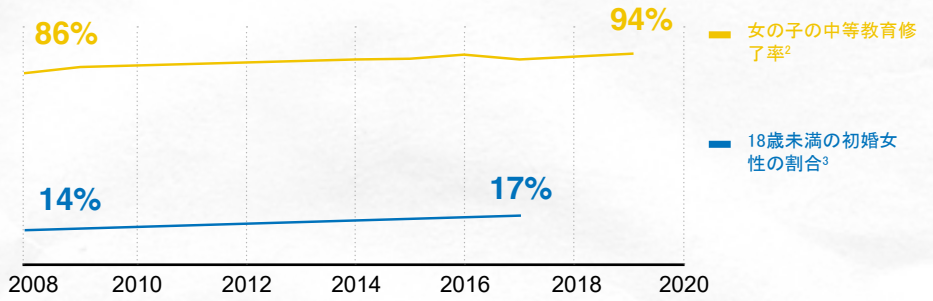
第16位



世界全体で

第81位

女の子を教育し、早すぎる結婚をなくす。



18歳未満の初婚女性の割合は2008年から2017年にかけて2.3%増加し、女の子の中等教育就学率は2008年から2019年にかけて8%を超えて増加している。

(1) (August 2021). UNICEF. *UNICEF global databases*. Available at https://data.unicef.org/resources/dataset/child-marriage/ (accessed 20 January 2022).

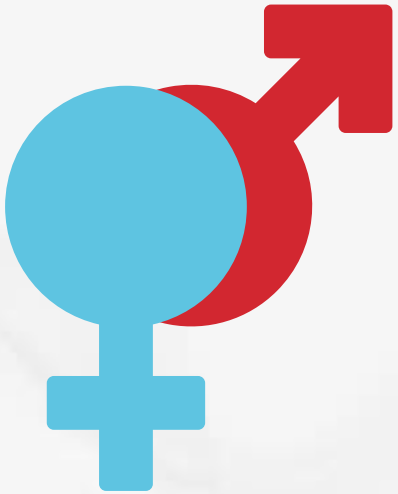
(2) (2018). Philippine Statistics Authority (PSA) and ICF. *Philippines National Demographic and Health Survey 2017*.

(3) (2021). World Bank. *World Developament Indicators*. Available at https://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.ENRR.FE?locations=PH (accessed 20 January 2022).

今こそ行動を！

タイ

10代のタブーを打ち破る:
早すぎる結婚を防ぎ、減らすため、性について語る



「私は、女の子は自分のことを自分で選択することができ、私たちが嫌がることを強制する権利は誰にもない、ということを学び、自信を得ました。」

タイ北部の10代の若者たちは、集まって輪になり、性に関する作り話、早すぎる妊娠の危険性やリスク、早すぎる結婚、コンドームのつけ方などについて、オープンに話し合っている。彼らは教室や家庭の中でフィルターにかけられることの多いタブーについて興味をもち、また熱心に議論している。

中でも、16歳の女の子オーンは、他の10代の若者が知りたいと思いながら怖くて聞けなかった質問に答えながら、議論を進めている。

通常、10代の若者にセックスや妊娠について話すのは難しいと考えている家庭やコミュニティでは、このような話題を議論することは珍しい。

対話の力

しかし、タイ北部では、このような気まずい対話も好転していく。プランのTeen Power for Better Lifeプロジェクトが開催する研修セッションや定期的なディスカッショングループを通じて、主にタイの農村部に住む若い女の子たちは、**妊娠、避妊、性と生殖に関する健康、性感染症**といったテーマについて自信をもって学んでいる。これらの学びを通じ、女の子たちは早すぎる結婚、早すぎる妊娠、ジェンダー差別との関連性を発見することができる。すばらしいことに、Teen Power for Better Lifeは、オーンのように、すべての人が、変化をもたらし、希望に溢れるユースリーダーになることを奨励している。n.

オーンは言う。*「私は他のボランティアと一緒に、性と生殖に関する健康と権利に関する知識を広め、早すぎる結婚の危険性に対する他の子どもやユースの意識を高めることに注力しています。今は、人の役に立てることに自信と誇りを感じています。」*



「研修を受けてから、早く結婚してしまうと、ビジネスウーマンになる夢を追うことができなくなるかもしれない、と気づきました。私は勉強して学位を取りたいのであって、単に誰かの妻になりたいわけではないのです。」

オーンはTeen Power for Better Lifeプロジェクトに参加するまで、コミュニティの多くの女の子たちと同じように、自分も早すぎる結婚を経て母親になる運命にあると信じていた。

「女の子は自分で自身の選択ができ、私たちの嫌がることを強制する権利は誰にもないということを学び、力づけてもらいました。また、性と生殖に関する健康と権利について、より深く学ぶことができました。そして、私のコミュニティにおけるジェンダー不平等や早すぎる結婚につながる慣習は社会的規範によるものだと気づいたのです。」

彼女の村では、多くの女の子が若いうちに結婚し、子どもを産むのは、**経済的な理由**と、伝統的に受け入れられてきた生活様式に従うべきという、**家族からの圧力が**関係している。特に地方では、この悪しき慣習を見て見ぬふりをする地方の役人も少なくないと言われている。

「すべての子どもには夢を目指し、勉強し、未来を追求する権利があり、若くして妻や母になる必要は決してないのです。」





トレーニングの力

Teen Power for Better Lifeプロジェクトにおける研修は、効果を生み出している。2021年3月、ユースの代表がプロジェクトのネットワーク会議に参加し、地域レベルでの性と生殖に関する健康の情報へのアクセスについて議論した。また、2021年9月20日のナショナルユースデーには、研修に参加したユース女性を中心とした代表者たちによる、**政府機関**への提言が発表された。COVID-19によって制限された、性と生殖に関する情報へのアクセスの再開が重要であるというのが、共通の提言内容となった。また、ユース女性のリーダーたちは、地方自治体からコミュニティ開発担当者まで、多様な関係者と協力して、**若者の権利と生活の質を向上させる**ためのアイデアを成文化することに努めている。こうした草の根の活動が徐々に実を結び、来年には国からの助成を受けるユースグループも出てくると考えられている。

「研修後、早く結婚してしまうと、ビジネスウーマンになる夢を追うことができなくなるかもしれない、と気づきました。私は勉強して学位を取りたいのであって、単に誰かの妻になりたいわけではないのです。私の村の女の子たちは、親の言うことに従う人こそがすばらしいと教え込まれるために、自分の人生をあきらめてしまっています。多くの子どもが、このことに苦しんでいるのです。」

現在もオーンは、Teen Power for Better Lifeプロジェクトのユースリーダーとして活動を続けている。彼女は他のボランティアとともに、性と生殖に関する健康や早すぎる結婚の課題についての知識を普及している。

*「**早すぎる結婚は社会問題であり**、子どもの人生に悪影響を与えるということを両親や社会に知ってほしいです。私たちは早すぎる結婚を認めず、女の子が教育課程を修了し、さらに夢を追いかけることができるように、高等教育への入学を支援する必要があります。強制された早すぎる結婚をなくすために、政府や関連団体に対し、介入への投資を求めます。」*





タイにおける早すぎる結婚の影響

早すぎる結婚率ランキング[1]。

アジア太平洋地域で

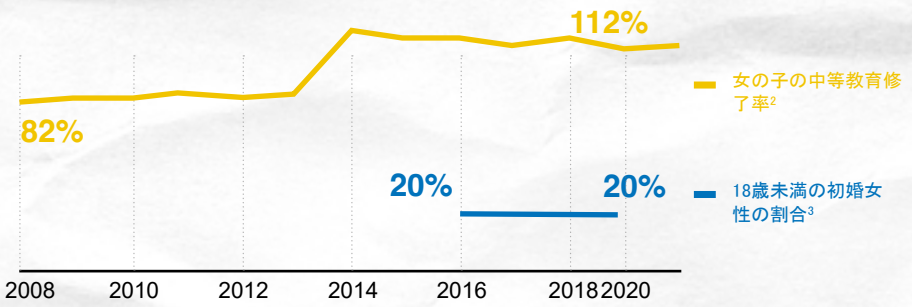
第12位



世界全体で

第70位

女の子を教育し、早すぎる結婚をなくす。



18歳未満の初婚女性の割合は2016年から2019年にかけて0.1%増加し、女の子の中等教育就学率は2008年から2020年にかけて30%以上増加している。

(1) (August 2021). UNICEF. *UNICEF global databases*. Available at https://data.unicef.org/resources/dataset/child-marriage/ (accessed 20 January 2022).

(2) (2016). National Statistical Office, and UNICEF. Multiple Indicator Cluster Survey 2016, Final report; (2020). National Statistical Office of Thailand. Thailand Multiple Indicator Cluster Survey 2019, Survey Findings Report.

.**(3)** (2021). World Bank. *World Developament Indicators*. Available at https://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.ENRR.FE?locations=TH (accessed 20 January 2022).

今こそ行動を！

東ティモール

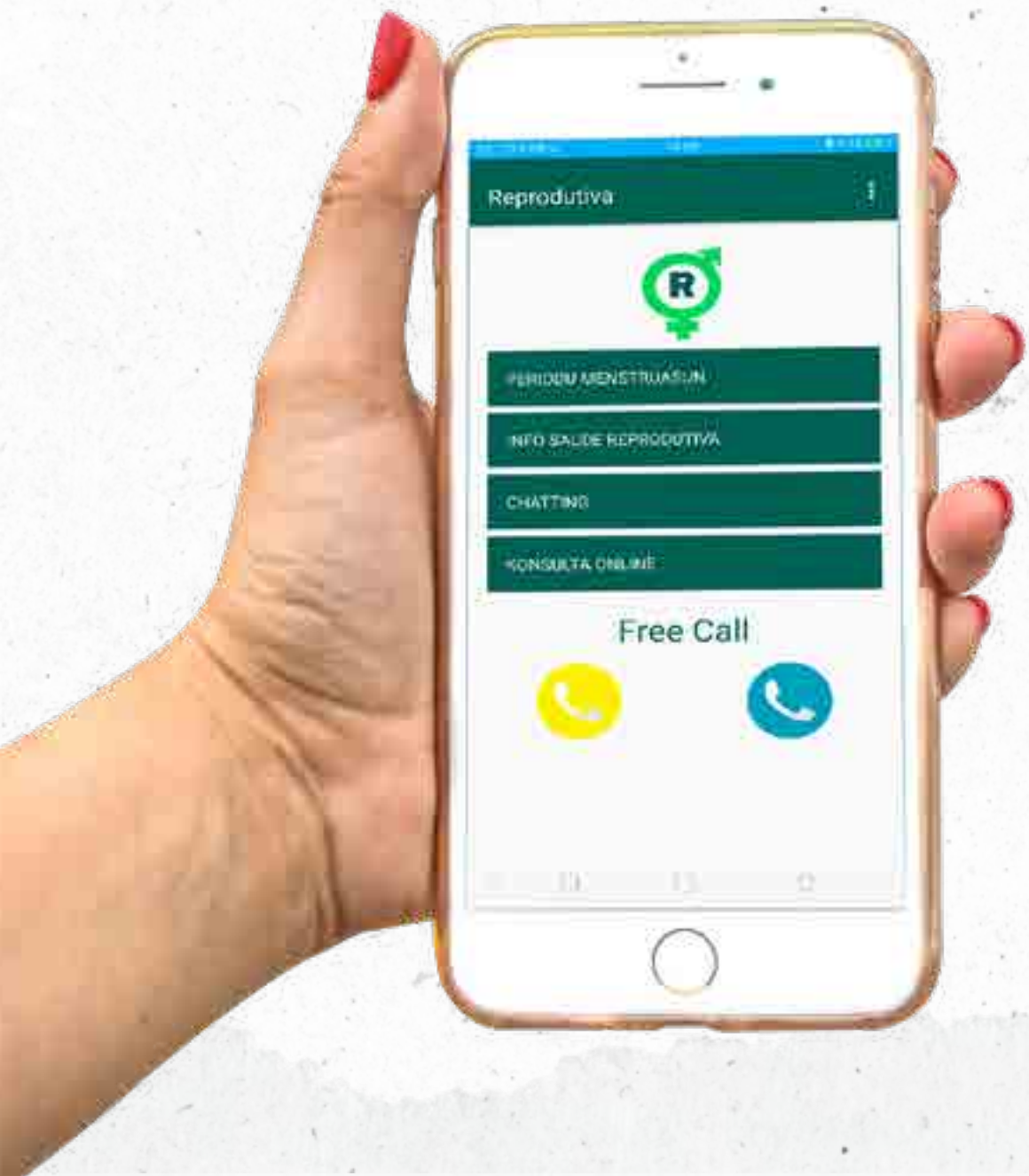
神話と恥ずかしさの解体：東ティモールで性と生殖に関する健康と結婚について適切な答えを得る10代の若者たち

20歳のヴァレリアは、10代の頃、性と生殖に関する健康についてよくわからずにいた。親や先生に聞いてみることも考えたが、大人にはそのようなことを話すことは許されるものではないし、誰にも言えないと思い、答えを探しながらも、我慢していた。



そして、友達のところへ行き、おずおずとタブーとされていることを聞くのを避けていると、結局、友達も戸惑っていることに気づくのだった。まだ性について十分な情報が得られていない彼女たちは、彼女たちなりの答えを出そうとし、仲間から性についてのゴシップを聞き、祖父母が話していた古い恐怖の神話や物語にもっと注意を払うようになるのだ。


LABARIK FETO
NO IGUALDADE



東ティモールの他の多くのユースの男女と同様に、ヴァレリアも性と生殖に関する健康についてよくわからず、他人に話すときに恥ずかしさを感じることが、思春期の生活で常にあった。

彼らは、他の地域の女の子たちであればすぐに得られるような答えを待っていた。それは、「排卵とは何か？」「次の生理はいつ来るのか？」「赤ちゃんはどうやってできるのか？」といった、当たり前の疑問から、「生理中に髪を洗ってもいいのか？」というような地域で信じられている通説の虚偽を暴くような疑問まであった。

幸いなことに、2018年以降、東ティモールの女の子は、そのような疑問への答えを新しい方法で得ることができるようになった。Reprodutivaは、ユース女性に性と生殖に関する情報を機密かつ安全なオンライン環境で提供するアプリであり、女の子は、携帯電話に、これまで聞きにくかった質問や思い込みについて打ち込めば、自分の身体と権利に関する本質的な答えを、見つけることができるようになった。

*「このアプリは若者である私にとって重要で、性や生殖に関する情報を入手し、より深く理解することができるのです。」*とヴァレリアは話す。

「このアプリは若者である私にとって重要で、性や生殖に関する情報を入手し、より深く理解することができるのです。」

刺々しい誤った認識や保守的な態度やオンライン上における母国語の誤った情報により、東ティモールの性と生殖に関する健康における最も差し迫った懸念と当惑はしばしば黙殺されたままになっている。

東ティモールのコバリマ、アイレウ、ディリの各自治体で、ユース女性の意思決定経路を調査したところ、ユース女性も男性も、東ティモールでの性教育や保健サービスの充実を望んでいることがわかった。多くの人が、そうしたサービスの向上が、同国で高い割合を占める早期妊娠や早すぎる結婚を減らすことができると指摘している。しかし、東ティモールでは性教育のタブーを破ろうとすると、しばしば論争に発展することがある。

そこで、プランは、神話や誤った情報を否定し、代わりに10代の若者の携帯電話を情報源とすることにした。

このアプリでは、性と生殖に関する包括的で明確な情報をリアルタイムで共有できる。そうすることで、女の子の性の健康の権利に関する従来の誤った認識を打破し、誤った情報を除外し、東ティモールの女の子が日々直面している多くのストレス、心配、不確実性を軽減することができる。

アプリを活用することで、女の子も男の子も、必要な時に自分の言葉で大切な質問をしたり、グループチャットで対処法を共有したり、専門家と話したり、相談や診察の予約を入れたりすることができる。

このアプリは、日常生活での利便性や接続性の良さだけでなく、女の子の権利を守り、意識を広めることにもつながる。途上国のユースの間では、携帯電話の利用率が急激に高まっている。飛躍的な技術革新により、10代の若者、特に女の子たちは、新たな機会に触れ、保守的な社会の障害を回避することができる。

*「最近の若者は、ほとんどの時間をインターネットに費やしていることが分かっているので、ユース向けの良いアプリだと思います。このアプリがあることで、ユースは簡単に性と生殖に関する健康についての情報を入手し、正しい知識を得ることができるのです。」*と、ヴァレリアは語る。

東ティモールでは、女の子のほぼ4分の1が20歳までに出産を経験している。こうした10代の高い妊娠率は、自身の身体の仕組み、早すぎる妊娠、早すぎる結婚、セックス、避妊方法などについての知識や理解の不足によって悪化している。

これに立ち向かうため、アプリを使って女の子に生理周期を記録してもらい、早期妊娠への意識を高めたり、妊娠した際のサポートや情報を提供している。また、これまで女の子は生理周期を理解していないために学校を欠席することが多かったが、この機能により、学校の出席率も向上する。

「アプリの情報でも、特に性と生殖に関する健康の情報には、とても助けられています。身体的にも心理的にも、自分についてもっと知ることができます。」

シンプルなアプリによって、子どもたち、とくに女の子たちはがらりと生活が変わり、また安全で、必要な保護を受け、教育を受ける権利を実現できる。

現在1,000人を超えるユーザーがReprodutivaを使用し、性と生殖に関する権利についての情報が確実に常に拡大・更新されるよう協力をしている。

自分の身体や性の健康について理解不足は、10代の自信を喪失させ、早期妊娠や早すぎる結婚につながる可能性がある。このアプリによって、ヴァレリアのように、全国の思春期の若者がより多くの情報を得て、安心して自分のことを自分で決めるようになることが期待されている。

「このプロジェクトに参加していなかったら、この問題について恥ずかしがっていた昔の自分のままだったかもしれません。間違った情報にアクセスし、性と生殖に関する健康とは何かということを話す自信もなかったかもしれません。」

「特に性と生殖に関する健康の情報には、とても助けられています。身体的にも心理的にも、自分についてもっと知ることができます。」。





東ティモールにおける早すぎる結婚の影響

早すぎる結婚率ランキング[1]。

アジア太平洋地域で

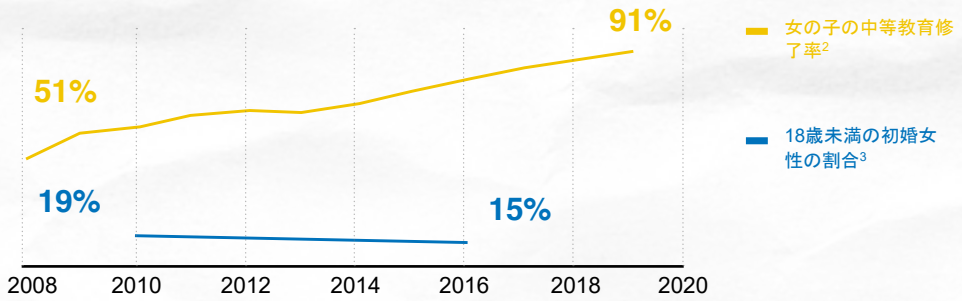
第19位



世界全体で

第86位

女の子を教育し、早すぎる結婚をなくす。



18歳未満の初婚女性の割合は2010年から2016年にかけて4%減少し、女性の中等教育就学率は2008年から2019年にかけて39%以上増加している。

(1) (August 2021). UNICEF. *UNICEF global databases*. Available at https://data.unicef.org/resources/dataset/child-marriage/ (accessed 20 January 2022).

(2) (2017). General Directorate of Statistics Timor-Leste, Ministry of Finance Timor-Leste, and ICF. *Timor-Leste Demographic and Health Survey 2009-2010; Timor-Leste Demographic and Health Survey 2016*.

(3) (2021). World Bank. *World Developament Indicators*. Available at https://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.ENRR.FE?locations=TL (accessed 20 January 2022).

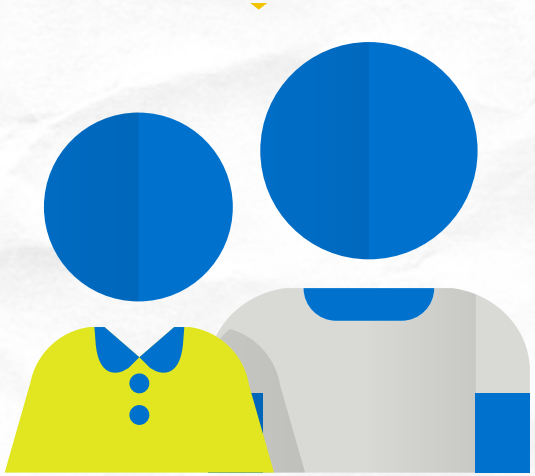
今こそ行動を！

ベトナム

未来は決まっていない:
早すぎる結婚の連鎖を断ち切る若い夫婦の委員会の委員たち

17歳のとき、マイとルアは恋に落ちた。多くの社会では、初恋は人生の節目であり、成長し、賢くなる軌跡の多くのステップうちのひとつである。

*「初めて学校で出会ったときからマイはとても印象的で、学校一背が高い、活発で歌が好きな女の子でした。」*と、ルアは語る。



ベトナム北部の国境付近山岳地帯に住む若いカップルにとって、彼らの社会の規範や伝統では、初恋とは突然やってきて、すぐに結婚することを意味していた。

ベトナムの貧しい少数民族は、遠隔地に住むことが多く、早すぎる結婚が一般的である。そのほとんどが、若い新婚夫婦が直面する問題を知らずにいる。マイとルアの村では、**女の子は14〜15歳の間に結婚するのが一般的**だが、もっと早い場合もある。

マイとルアは、17歳まで結婚することを拒否していた。しかし、家族やコミュニティからの圧力は避けられず、また酷いあだ名で呼ばれたり、仲間はずれされ、そしてマイのような女の子にはすでに描かれた未来があるとのことから、早急に結婚をせざるを得なくなった。



「マイと彼女のクラブは、
男の子だけでなく、女の子にももっと
投資すべきであると教えてくれた。」

早すぎる結婚がもたらすもの

マイの義理の家族は、男性だけが勉強を続けるべきだという考えを持っていたため、彼女は学校を中途退学し、義理の家族と一緒に住むことを余儀なくされ、彼女の人生は変わった。家事と夫の実家の農業を手伝うのが新しい彼女の生活スタイルになった。結婚して間もなく、マイは**長女を出産した。**

結婚が早かったことと、2人の娘がいたことから、夫と2人で生計を立てることができなかった。マイはルアの実家の家族として、自分自身のことに関する決断を含め、生活の**すべてを夫の家族に頼らなければならない**。髪型を変えるにも許可が必要だ。

「完全に無力感に苛まれていました。私には絶対的な壁があり、何も変えられないと思いました。」

支援を提供するクラブと委員会

伝統のプレッシャーやコミュニティ内での役割に耐えられなくなったマイは、プランが提供するコミュニティへの継続的な支援に救いを見いだした。彼女は、彼女の村のガールズクラブのメンバーになり、そこでは、彼女たちが安全に自身の話をし、どうすれば障壁を取り除き、自分たちに課した、早すぎる、強制された結婚を思いとどまらせることができるかを学ぶことができる。

マイはガールズクラブでの経験をルアと共有することで、ルアは女の子が世界で発揮できる力についての貴重な見識を得ているのだ。

ルアは言う。*「マイと彼女のクラブは、男の子だけでなく、女の子にももっと投資すべきだということを教えてくれたのです。男の子たちは女の子よりも多くの機会があり、それは公平ではありません。彼女たちも社会で活躍する可能性があるんです。男性である私たちは、女の子や女性をサポートする大切な存在になることができます。男の子たちは、女の子たちが自信をもつための活動に有意義な貢献ができるのです。」*

ガールズクラブを通じて、マイは**全国青年諮問委員会**のメンバーに選出された。そして、同じくメンバーになったルアは、毎日彼女を無条件にサポートしている。

「妻のコミュニティに対する情熱と、止まらないエネルギーに感心し、毎日刺激を受け、鼓舞されています。」

2019年に設立された「全国青年諮問委員会」は、早すぎる結婚やジェンダー平等について国レベルでの情報提供や教育を行っている。ルアとマイは、ハザン省の若者を代表して、賛同してくれる仲間とともに全国で講演している。

マイとルアは、**委員会**で学んだことを自分たちの村に持ち帰るために、一生懸命に取り組んでいる。

「私たちは、委員会で唯一夫婦と参加しています。私たちは、私たちの物語や経験を共有することができます。私たちが学んだことで、私たち夫婦は今コミュニティで、早すぎる、強制された結婚、に反対する支持者になっているのです。」とルアは言う。

ユース諮問委員会のメンバーは、プランにおける有意義なユース参加に関わるアンバサダーやインフルエンサー、アドバイザーである。そして委員会は、ユースの声を積極的に取り入れ、彼らからのより有効な意見を集めることを目的に設計されており、ユースが自信をもって、早すぎる、強制された結婚をなくすために議論を進めるプラットフォームを提供している。

ルアは、これらの委員会を通じて、妻をサポートすることが、家族から受ける日々のプレッシャーを軽減することにつながることを学んだ。

「妻のコミュニティに対する情熱と、止まらないエネルギーに感銘を受け、毎日刺激を受け、鼓舞されています。」

メンターのマイ

現在、マイは、過去の経験を生かして、結婚するには早すぎる女の子に、結婚を思いとどまらせるために、コミュニティのメンターとして活動を続けている。ガールズクラブを通じて、彼女は、女の子たちに夢をあきらめないこと、他人の傷つく言葉に左右されないことを呼びかけている。

「何年かぶりに目標ができました。2人の娘の未来を変えるために、小さなことでも貢献したいのです。彼女たちを学校に行かせ、夢を持つこと教え、彼女たちが羽ばたけるように頑張ります。」

それを支えるのは、夫のルアだ。マイの愛情と意欲を見て、ルアは、娘やコミュニティの他の女の子たちのより良い未来を信じてやまない。

「夫や家族のサポートがあれば、女の子や女性はすばらしいことができるのです。娘たちにも妻のように、自信と勇気のある子になってほしいと願っています。そして、子どもたちがいつも幸せでいられるような環境を整えてあげられればと思っています。」



今こそ**行動を**！

ベトナム

ライトウェブ：
女の子をダークウェブ（訳注：特別なツールを使ってしかアクセスできない非合法の闇のインターネット）から遠ざけ、早すぎる結婚を防止するオンラインプラットフォーム

世界的なコロナのパンデミックにより、家に閉じこもりがちになった人々は、ネットの世界に目を向け、そこで癒しを得たり社会的な交流することで、孤独感を解消している。しかし、インターネットは広大な空間であり、制限もあまりない。そのため、ベトナムでは、特に若者が、無制限にネットサーフィンをすることで、ダークウェブに潜む危険にさらされる可能性がある。



ベトナムの農村に住む多くの若者は、複雑なオンライン空間を操るためのデジタルに関する認識や知識を持ち合わせていない。見知らぬ人からチャットのリクエストを受けたり、軽率に知らないリンクをクリックしたりすることで、好奇心がのちに、オンラインでの人身取引、虐待、早すぎる結婚につながる可能性がある。

デジタル空間:
良い点、悪い点

マイは、デジタル空間がもたらす危険性を、身をもって体験している。

「私の村では、多くの男の子と女の子がネット上で友達を作り、仮想空間で恋に落ちています。そして、実際に会って妊娠し、*14*歳か*15*歳で学校を中途退学してしまうのが、今はとても一般的になっています。」

新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって、**今後*10*年以内に世界中で*1,000*万人を超える女の子が早すぎる結婚の危険**にさらされている。デジタルでの交流がこの流れを加速させるおそれがある。



「早すぎる結婚を撲滅するのためのコミュニケーションの手段として、ポスターやバナーといった従来のスタイルは、もう通用しないのだと思います。ユースである私たちは、テクノロジーに敏感です。早く結婚するかしないかを選んで、そこから結果が見えてくるようなゲームを作ってみてはどうでしょうか。」

オンライン空間によって、早すぎる結婚や子どもや若者への多様な暴力・虐待の潜在的なリスクが高まった。例えば、女の子がネットで他県の男の子と仲良くなり、女の子の親に内緒で会い、男の子の家に行くことなどが挙げられる。親が気づいたときにはすでに手遅れであり、コミュニティでは暗黙の了解とされ、何の手の施しようもないということが通常である。

しかし、農村部でのインターネット環境が改善されることによって、デジタル技術やオンラインプラットフォームは、子どもや若者の生活における問題の解決策への契機ともなる。従来のコミュニケーション手段から脱却することで、現代における女の子の権利に関する情報にアクセスし、教訓や優れた実践を学ぶことができるからだ。

「早すぎる結婚撲滅のためのコミュニケーション手段として、ポスターやバナーといった従来のスタイルは、もう通用しないのだと思います。ユースである私たちは、テクノロジーに敏感です。早く結婚するかしないかを選んで、そこから結果が見えてくるようなゲームを作ってみてはどうでしょうか。」 と、15歳のトワは言う。

プラン・インターナショナルでは、トワをはじめ、早すぎる結婚に反対する多くのユースたちの声に耳を傾けてきた。プランはオンライン空間を利用し、若者を教育することで、若者を虐待や人身取引、強制された早すぎる結婚からオンラインで保護している。

このプロジェクトの最も重要で包括的な目的は、少数民族の若者（10歳から24歳）がデジタルスペースを利用して、自分たちの権利を理解し主張し、支援サービスを利用し、政策立案者に向けて声を上げることであり、ベトナムの4つの省の農村コミュニティで活動している。





若者が早すぎる、強制された結婚から自身の身を守るためのデジタルスキル

ベトナム北部に住む15歳のトーと彼女のクラスメートは、**EMPoWR**プロジェクトによる支援を受けている。彼女の学校では、ほとんどの生徒がスマートフォンを持っており、親や教師から大人になるまでスマートフォンを禁止するようにと言われても抵抗しているそうだ。

「多くのリスクを抱えていても、スマートフォンは私たち女の子が外の世界を知るために欠かせないものです。」

しかし、リスクは存在する。トーのクラスだけでも、3人の女の子がネットで知り合った後、早すぎる結婚をした。トーは用心しながらネットサーフィンをするようにしている。

「ソーシャルメディア を使って、ベトナム中の人とおしゃべりしたり、友だちになったりしています。でも、人身取引に引っかかってしまう危険性を知っているので、男の子よりも女の子に友達申請をするようにしています。」

しかし、自覚していても、早すぎる結婚の可能性がある状況に立ち向かう自信と能力がないため、彼女やクラスメートは無力感にさいなまれている。

「私と友人は、他の女の子が他県の男の子とチャットしているのを見つけると、注意したり、学校をサボってその男の子に会いに行っていないか目を光らせたりするようにしています。しかし、それを止めようとしたり、親や教師に言う勇気はありません。」

トーのような経験はよくあることだ。そこでEMPoWRプロジェクトではデジタルリテラシー教育とオンライン上の安全に関する教育が重要事項とされている。特別に開発された研修パッケージや教育用ビデオを通じて、オンラインと対面の両方の形式で、より多くの人がデジタル世界の潜在的なリスクと落とし穴を理解することが期待されている。また、早すぎる結婚の危険性について助言し、情報を提供するための新しいプラットフォームも構築した。

このプラットフォーム**Girls' Rights Platform**は、女の子と女性の権利問題に関する対話、情報交換、交流を促進するものである。少数民族の女の子や男の子、ユース女性や男性を早すぎる結婚のリスクから守るために役立っており、トーは、早すぎる結婚の危険にさらされている友人を、このプラットフォームに誘導することができるようになった。





このプラットフォームは、データライトと呼ばれる独自の設計になっている。インターネット接続が困難な遠隔地でもアクセスできるようになっている。プラットフォームで共有される重要な情報は、冊子にまとめられ、インターネットにアクセスできない人たちに配布されている。

18歳のフエは、このプラットフォームが、フオンホア地区フック・コミューンに住んでいる彼女のように遠隔地の女の子にとって役に立つと考えている。

「女の子たちは、自分たちの権利、思春期の性と生殖に関する健康、専門的なキャリア志向、働きがいのある人間らしい適切仕事（ディーセント・ワーク）へのアクセス、そして教育を継続し、早すぎる結婚や早すぎる妊娠を阻止することに関することなどを学ぶことができます。」

1年後、このプラットフォームは、強制された早すぎる結婚や人身取引だけでなく、教育の機会、経済的エンパワーメント、安全な移動などにまつわる認識を高めるのに貴重なールであることがわかり、またその結果として早すぎる結婚の防止に貢献している。

ベトナムでは**人口の3分の2以上がインターネットを利用している**。デジタルの世界がベトナムのユースの生活を支配し始めた今、彼らが自分自身を守り、十分に保護されるよう主張するためのツールを備えておくことが重要である。

*「情報はとても重要で、私たちが解決策や機会を得るのを助けてくれます。小さな、シンプルな一歩を踏み出すことで、私たちは遠くの世界まで行くことができ、また夢を実現させることができるのです。」*と、フエは考える。

「女の子たちは、自分たちの権利、思春期の性と生殖に関する健康、専門的なキャリア志向、働きがいのある人間らしい仕事（ディーセント・ワーク）へのアクセス、そして教育を継続し、早すぎる結婚や早期妊娠を阻止することに関することなどを学ぶことができます。」

ベトナムにおける早すぎる結婚の影響

早すぎる結婚率ランキング[1]。

アジア太平洋地域で

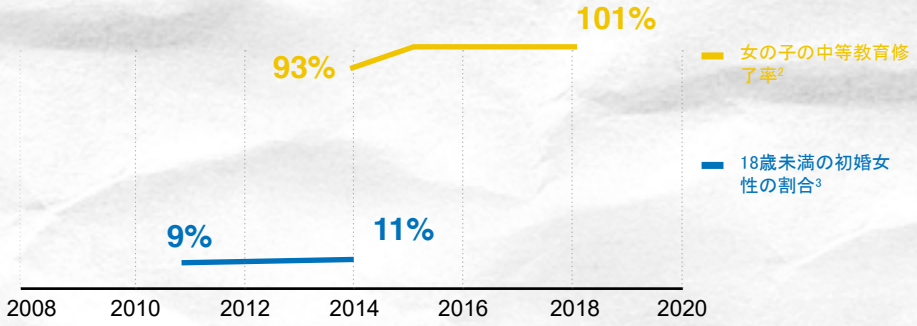
第21位



World

第98位

女の子を教育し、早すぎる結婚をなくす。



18歳未満の初婚女性の割合は2011年から2014年にかけて1.3%増加し、女性の中等教育修了率は2014年から2018年にかけて7%を超えて増加している。

(1) (August 2021). UNICEF. *UNICEF global databases*. Available at https://data.unicef.org/resources/dataset/child-marriage/ (accessed 20 January 2022).

(2) (2015). General Statistical Office and UNICEF. Vietnam Multiple Indicator Cluster Survey 2011, Final Report; Vietnam Multiple Indicator Cluster Survey 2014, Final Report.

(3) (2021). World Bank. *World Developament Indicators*. Available at https://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.CMPT.LO.FE.ZS?locations=VN (accessed 20 January 2022).

今こそ行動を！

アジア太平洋地域

言葉から行動へ:
アジア太平洋地域における早すぎる結婚の廃止を求めるユース活動家たち

「自由のドレスは苦しくない。右肩上がりを妨げるものではない。私たちが高く舞い上がるのを縛りつけないのです。誰もが自由のドレスを身にまとうことができ、あなたや私、身にまとえない人はいないのです。今日と明日の自由のために、ドレスを縫おうではありませんか。誰もが自分だけの自由のドレスを身につけてよいのだから。」



2021年11月17日に開催された第3回ASEAN地域フォーラムにおいて、ケニアは「**早すぎる結婚のない東南アジアを目指して**」という声明の最後に、オンラインで参加していた政府関係者やASEAN高官、その他の関係者に向けてジェンダー平等に関する力強い詩を紹介した。

3年間にわたり、ケニアのような男女のユースが自身の経験や早すぎる結婚を防止するための活動について直接語り、活動の中心的な役割を果たしてきた。影響力をもつ意思決定に関わる人たちに、この問題を早期に終結させるために断固とした行動をとるよう働きかけてきたのである。強制された早すぎる結婚をなくすためのコミュニティにおける活動の形成について、フォーラムで注目をあびたのは、聴衆に行動を起こすように強く訴える、若い活動家たちの感動的で心に響く言葉だった。





ケニア、フィリピン

活動家であり、クリエイティブパフォーマーでもある17歳のケニアは、感動的なスピーチの中で、ネガティブなことであるにもかかわらず、コミュニティの中で早すぎる結婚が広く一般的に行われている要因は、他の地域にも共通する、貧困の問題と深く関わる社会規範や伝統にあると、考察を述べている。.

「早すぎる結婚を根絶することは困難です。それは長年にわたり、私たちにとってあたりまえの現実だったからです。マンギャン族((フィリピン北西部の先住民族))の女の子や男の子は、思春期を迎えたらすぐに、数週間から数カ月で結婚することが当然だと考えているコミュニティで暮らしているのです。」

ケニアは、**Bidang Bulilit**(小さな子どもはスター)というラジオ番組の中で、この長年続く慣習に立ち向かうために活動をスタートした経緯について語った。このラジオ番組はフィリピンのプランが1999年からサポートしているもので、ジェンダーや権利について語り合う番組である。ケニアは、ラジオ番組というプラットフォームを利用して、自作の詩を紹介し、人々に気づきと行動をを呼びかけてきた。

「これから何が起きるか、私にはわかります。ずっと見てきたから。おとぎ話のような結婚式のあとに一生続く悪夢がおとずれるのです。早すぎる妊娠、中途退学、家庭内の虐待や暴力、終わらない家事労働、育児や介護、そして失業。」

「私は地域の政策を検討する場に参加し、伝統的な結婚式である『カサル・カティプナン』の禁止を求めています。カサル・カティプナンが、女の子たちの早すぎる結婚を可能にし、その結果、私たちの地域の思春期の女の子たちの妊娠率も高くなってしまうのです。」

彼女は、この活動がきっかけで、早すぎる結婚に反対する全国的なキャンペーンを行う若者グループに参加するようになったことを説明した。

「やがて私は、子どもの早すぎる結婚や強制された結婚をなくそうと訴える活動の支持者の一人になりました。そして私たちの訴えが、フィリピンの立法府を動かし、早すぎる結婚の禁止法案が速やかに可決されるに至ったのです。」

教育への投資が何より重要であることを、ケニアは、これまでの要望書の中で繰り返し強調してきた。マンギャン族のように教育よりも結婚が重要視されている地域では、結婚が貧困から抜け出す手段であると信じられているのだ、と。しかし、彼女自身の体験が証明するように早すぎる結婚は逆の結果を招いてしまう。

「これから何が起きるか、私にはわかります。ずっと見てきたから。おとぎ話のような結婚式のあとに一生続く悪夢がおとずれるのです。早すぎる妊娠、中途退学、家庭内の虐待や暴力、終わらない家事労働、育児や介護、そして失業。」

また、ケニアはCOVID-19のパンデミックが状況を悪化させたことについても触れ、先住民が住む遠隔地では虐待が通報されないまま放置される事案が起きていると説明した。

「パンデミックの影響で経済状態が悪化した結果、女の子たちは経済的な負担から逃れ、よりよい生活をもとめて早すぎる結婚を強いられることになりました。オンライン授業は私たちの地域では思うようにいきませんでした。人里離れた地域ではネット環境が不安定で、結果的に彼女たちは途中で学校を辞めるしかありませんでした。」

今こそ行動を！

早すぎる結婚を根絶する過程におけるこうした幾多の困難にもめげることなく、ケニアはこの慣習を撤廃しようと決意を固めている。彼女は、女の子やユース女性を傷つける文化や慣習を終わらせるために、垣根を超えて、政策や立法を通じてもっと取り組む必要性を政府に繰り返し要望した。

「ユースとその保護者は、性と生殖に関する健康と権利について学ぶ必要があります。性と生殖に関する健康に関するサービスにアクセスしやすくなればユースたちはより多くの正しい情報を得られるようになり、適切な指導や助言を受けられるようになるでしょう。意思決定には、女の子をはじめ先住民族コミュニティのすべての子どもと若者が参加すべきです。私たちの声こそ議論の場で取り上げられるべきものであり、私たちの物語を伝えるプラットフォームが必要なのです。」

その声を届けるために、彼女は他のユースたちにも早すぎる結婚撲滅のために活動に参加して欲しいと考えている。

「私たちが声をあげること、表現することは、これまで耳を傾けてもらえなかった声を届けるためのとても強力なツールになることを、私たちは証明してきました。私自身も、ソーシャルメディアのプラットフォームを使ってこの問題についての知識を発信しています。私は詩を通して、彼らの物語を共有しています。真実と現実を語る物語です。」

彼女の証言は、早すぎる結婚に反対する若い活動家たちは、この慣習を根絶するために、より大きなプラットフォームを必要としていることを明らかにした。彼女はオンラインの視聴者にこれを達成できるように活動家たちに力を与えてほしい、と締めくくった。

「リーダーのみなさん、私たちが持っている力を最大限に発揮させてください。その力を最も必要としている人たちに届けさせてください。私たちユースは心待ちにしています。あなたが私たちの力を生かして今日のような変革を起こし、誰かを救うヒーローになるのを見たいのです。強制された早すぎる結婚から解放されるために、一緒に取り組みましょう。」

「ユースとその保護者は、性と生殖に関する健康と権利について学ぶ必要があります。性と生殖に関する健康に関するサービスにアクセスしやすくなればユースたちはより多くの正しい情報を得られるようになり、適切な指導や助言を受けられるようになるでしょう。」

「私は、強制された早すぎる結婚の根絶を訴える活動家の一人となりました。そして、私たちの訴えが、フィリピンの立法府を動かし、早すぎる結婚の禁止法案が速やかに可決されるに至ったのです。」



ティエン、ベトナム

各地域の証言で、スピーカーたちは、プランが支援する子どもクラブやユースフォーラムが、問題の原因をより深く理解し、他者と共に学び、協力する機会を提供している、と繰り返し語った。早すぎる結婚をなくし、ジェンダー平等の社会を実現するために、男の子も女の子も、一緒に活動している。ベトナム北部の山岳地帯、ライチャウ省に住む20歳のユース、ティエンもその一人だ。

「約5年前、私の村では、強制された早すぎる結婚がごく普通に行われていました。女性は18歳までに結婚しないと、コミュニティのみんなから、本人や家族に何か問題があるのではないかと思われたのです。プランが私たちの村に来るようになって、人々の行動が変わっていくのを目の当たりにしました。特に若い世代がより柔軟に新しい考え方を受け入れて変わっていったのです。」



数年間、この問題に立ち向かうために積極的に声を上げてきたティエンは、チャンピオンズ・オブ・チェンジ・クラブの代表に選ばれた。このクラブは、毎月定期的なミーティングを開催し、メンバーが自身の経験を共有したり、保護者から結婚するよう迫られたときに互いにアドバイスをしたり、早すぎる結婚が家族やコミュニティ全体にもたらす負の結果について人々に伝えるコミュニティイベントを主催したりしている。

「ただ一般論を話しただけではありません。結婚した若い夫婦にも参加してもらい、彼ら自身の経験も話してもらいました。教育の平等について話し合い、ヤギを飼う、米を育てるといった生計を立てるための新しい方法をともに模索しました。早く結婚するよりも良い、別の選択肢がある、と証明するためです。活動は小さなものかもしれませんが、草の根レベルの活動が大きな変化を生むと信じています。」

今こそ行動を！

女性の権利を擁護するユース男性として、ティエンは集団の力を強く信じている。そして彼は、早すぎる結婚の根本的な原因である社会規範や偏見を変えるために、彼は多くの人を活動に巻き込むことの重要性を強調する。

「早すぎる結婚を終わらせる責任は、女の子や女性だけにあるのではなく、変化を起こすためには、男の子や男性も重要なファクターだと思います。男の子と女の子が一緒になって取り組めば、保護者をより説得させられるようになるかもしれません。」

ティエンは、男の子にも女の子に関わらず、早すぎる結婚以外にも多くの機会があることを学び、有害な社会規範やジェンダー・ステレオタイプを打破するよう呼びかけ、スピーチを終えた。

「強制された早すぎる結婚は、性別に関わらず私たち全員に悪影響があるのです。女の子と男の子が一緒にこの問題をなくせるように、団結しましょう。社会通念や偏見に縛られることのない多くのチャンスが、私たちを待っているのです！」。



リア、インドネシア

インドネシア南カリマンタン州出身の24歳のリアは、2017年から早すぎる結婚に反対する活動家として活動している。彼女はスピーチの中で、女の子たちが直面する問題の大きさを知るにつけ、この状況に正面から向き合うための知識をつける決心をしたことを語った。

「他の女の子たちには、母が経験してきたことを絶対に経験してほしくありません。」

科学雑誌の記事で彼女はアジアにおける早すぎる結婚の影響についてさらに詳しく知ることになった。

「私はこの問題についてより深く知ることになり、子どもの権利を守るためのコミュニティ活動に積極的に参加して、子どもの結婚を防ぐことに貢献したいと強く思うようになりました。早すぎる結婚が特に女の子の人生に大きな影響をおよぼすことを学び、私は、特に女性の権利とジェンダーの平等に関心を持つようになったのです。」

そして、彼女はガール・アップを結成し、コミュニティにおける早すぎる結婚防止とジェンダー平等の実現に力を注いでいる。

「私たちは学校を訪問してワークショップを実施しています。早すぎる結婚やそれに関連する問題について、それをどう予防するか、性と生殖に関する権利や早すぎる結婚の悪影響について認識を高める、リーダーシップ強化などについて伝えています。」

彼女のたゆまぬ努力と知識はそれを聞いている聴衆にも明確に伝わるものだった。彼女は、自身が暮らす地域における早すぎる結婚がもたらす影響について調査のポイントを次々発表した。

「南カリマンタン州では2017年から2020年の間に2,500人を超える子どもたちの婚姻が行政に登録されています。そして、このことが子どもたちやコミュニティに有害な影響を及ぼしています。家庭内暴力の件数はこのうち30%以上で発生し、40%以上の女の子が学校を中途退学しています。彼女たちはスキルや能力を身に着ける機会を失いました。そして最も注視すべきなのは、強制された早すぎる結婚が原因となった離婚は24%であったことです。」

地域フォーラムの他のスピーカーと同様に、彼女もまた、COVID-19の感染拡大が状況を悪化させたと語った。

「女の子たちは学校に行くことができず、家にいるしかありません。パンデミック下で深刻な経済問題に直面し、生きていくための選択肢はほとんどありませんでした。彼女たちの保護者は家計の負担を軽減するため、彼女たちを結婚に追い立てたのです。」

これがきっかけで、リアはAmplify Herプロジェクトを新たに立ち上げ、地元の女の子たちにデジタルとテクノロジーの基本的なスキルを学ぶ機会を提供し、オンラインの環境に適応するための奨学金を支給している。

*「彼女たちが前向きで生産的な活動に取り組むことは、**結婚だけが将来の唯一の選択肢**だった彼女たちの視野を広げる助けになると考えています。」*

今こそ行動を！

リアは、希望とステークホルダーへさらなる連携を呼びかけて、発言を締めくくった。彼女は、政策が確実に実施されるために、国や地方自治体の連携の強化が必要であり、早すぎる結婚を根絶するために東南アジア地域の諸国が、互いに刺激を受け合う必要があると考えている。

「全てのステークホルダーたちは孤立せずに連携し、協働していかなくてはいけません。子ども、特に女の子にレジリエンスを持たせ、変化の担い手となるよう働きかけ、女の子の持つ可能性を最大限に引き出そうとする活動ではなおさら、連携と協働が必要です。戦略的に社会全体の意識を変えていくためには、早すぎる結婚に対するあらゆる取り組み、草の根レベルで実施され、モニタリングと評価が適切に行われることが絶対に必要です。私は早すぎる結婚は終わらせることができると固く信じています。女性、女の子、ユース、すべての人に、これまで想像もできなかった明るい未来が待っているのです。」



リズキ、インドネシア

22歳のリズキのスピーチから発せられたメッセージは、それを聞いていた男性たちの心に特に強く響くものだったかもしれない。彼は聴衆に向けて、自分は幼いときから女の子の味方であり、早すぎる結婚に反対する活動家であったとことを伝えた。

「私は、若い活動家であり、フェミニストであると、堂々と言うことができます。私はインドネシアにおける子どもの権利の実現を訴え、特に農村部に住む社会から取り残された女の子たちの権利を強く主張し続けてきました。男の子や男性も解決の一端を担っているのです。」

彼は、女の子や若い女性に対する性的虐待事案が非常に多く報告されているボゴール地区について取り上げ、いかに男の子や男性が早すぎる結婚対策に無関心であるかを訴えた。

「この問題は、私にとってとても身近で重要な問題です。私の友人たち（主に女の子）が被害にあっているからです。そんな現実を生きる中で、私は本格的な行動を起こすことにしました。子どもとユースのための3つのプラットフォームを立ち上げて子どもの権利を主張することにしたのです。」

彼はその3つのプラットフォーム、「子どもフォーラム」「生徒会」「思春期同盟」を通して、性暴力を含む子どもへの暴力の問題について、どのようにピア(仲間）同士の対話を深めているかについて語り、プランと共に子ども主導で早すぎる結婚についての調査も進めていると紹介した。

彼の主張と活動はこれだけにとどまらない。リズキの早すぎる結婚に対する活動を聞く前に、多くの人は、まず深呼吸をして姿勢を正す必要がある。3つのプラットフォームだけでなく、女の子の権利擁護とジェンダー平等実現のための全国活動にも参加し、男の子やユース男性の強い関与に焦点を当てている。男性に焦点を当てた活動こそ、彼がまさに欠けていると感じているものだ。

「早すぎる結婚をなくすための戦略の多くは、被害者となる女の子をターゲットとしていて、男の子や若い男性たちがその解決への道筋に含まれていないことに気づきました。」

特に男性中心の考えが根強い文化圏では、男性が女の子の権利を支持するようになることが重要であり、男性への働きかけがより多くなされるべきであると説明した。

「インドネシアのような家父長制の文化では、継続的な規範や行動を変えるためには、男の子や男性こそが重要なアクターとなり、結婚するかしないかを決める最終的な決定権は男性にあると考えられています。
家父長制の文化の中で長年続く規範や行動を変えるには、男性は重要な役割を担うことになります。インドネシアでは、結婚するかしないかの最終的な意思決定を行うのは男性であるべきと考えられています。しなしながら、私が参加したジェンダー平等に関するフォーラムでは、男性の参加者はまだ少数でした。」

「早すぎる結婚をなくすための戦略の多くは、被害者となる女の子をターゲットとしていて、男の子や若い男性たちがその解決への道筋に含まれていないことに気づいたのです」

今こそ行動を！

様々な懸念はあるものの、リズキは前向きに希望を見出している。彼は、the Youth Coalition for Girlsのように男の子の参加を歓迎するグループがあり、ジェンダー平等について学んだり、ジェンダーの固定観念を脱却しようと試みたり、早すぎる結婚の危機を日常の中で目にする機会が増えていくことを通じて、変化を起こせると信じている。

「ジェンダーを考慮した行動をとる男の子や男性が増えれば、男女の平等な関係構築が促進され、早すぎる結婚につながる早すぎる妊娠などの危険な行動を防ぐことができます。男の子と男性が早すぎる結婚の撲滅にしっかりと関わることは、それが女性や女の子だけの問題ではないことを示すことにも繋がります。」

そして、リズキはスピーチを締めくくるにあたって、影響力のある聴衆に対して、早すぎる、強制された結婚をなくすための味方を増やしていくために、既成概念にとらわれず、今すぐ行動を起こしてほしいと呼びかけた。

「早すぎる結婚の根本的な原因であるジェンダーの不平等問題に取り組むためには、男の子や男性の関与が不可欠です。
従って、私はASEANのすべてのリーダーに対し、より多くの男の子や男性が参加し、ジェンダー平等と早すぎる結婚の撤廃を提唱できるようなプラットフォームの構築に投資することを求めます。」





早すぎる結婚のない東南アジアへ – 地域フォーラム

2021年11月17日、3回目となる、強制された早すぎる結婚撲滅のための地域フォーラム「早すぎる結婚のない東南アジアを目指して」がパンデミック規制に伴いオンラインで開催された。このフォーラムは、女性と子どもの権利の促進・保護に関するASEAN委員会とプランが主催し、ASEAN事務局の支援を受けて実現したものである。フォーラムでは、早すぎる結婚の蔓延に関する最新のデータとエビデンスを用いて、早すぎる結婚をなくすための女の子と社会特有の課題と可能性、そしてジェンダー平等と女の子のエンパワーメントの達成を加速させる方法が強調された。フォーラムの最終ゴールは持続可能な開発目標に関連して2030年までに早すぎる結婚を撲滅する取り組みを促進するという過去2回にわたるフォーラムでなされた目標をもとに構築されたものである。

フォーラムにおけるもっとも重要な目的はASEANのステークホルダーたちの間に継続的な対話を保証することであり、互いの価値観やアジェンダを促進させる成功事例についてシェアすることであった。特にCOVID-19によって深刻化した、緊急の課題と危機、に焦点を当てている。

アクションを呼びかける

強制された早すぎる結婚を終わらせる女の子主導の解決とアクションはアジア太平洋地域各所で変化をもたらしている。

今こそ

「楽しもう」

子ども時代や青春時代は思い切り楽しみ、学び、教育を受けるときです。

今こそ

「行動を起こそう」

女の子に平等を！

今こそ

「私たちと一緒に」

私たちと一緒に早すぎる結婚をなくし女の子と男の子を支援してください。

Donate to end child marriage in Asia-Pacific!

PLAN INTERNATIONAL | LOUDER THAN WORDS

この証言集は、効果的な取り組みの事例を積み上げ、早すぎる結婚を終わらせることを訴えるプランの取り組みの一環として作成された。数々の取り組みに刺激を受け、テークホルダーが、行動を起こし、この有害な慣習を完全になくすことを目指すものである。

– 今こそ行動を：早すぎる結婚をなくそう